



資料 1

TOKYO 2020

東京2020組織委員会の主な活動報告（2019年）

公益財団法人 東京オリンピック・パラリンピック競技大会組織委員会

目次

1. 東京2020大会の概要
2. 競技会場
3. 競技スケジュール
4. テストイベント
5. 開会式・閉会式
6. 聖火リレー
7. 機運醸成に向けた取組み
8. 子どもの参画
9. 持続可能性
10. 大会ボランティア
11. 大会チケット
12. メダルデザイン
13. 復興に関する取組み
14. 組織委員会予算V4

1 東京2020大会の概要

競技日程

オリンピック(17日間)

7月24日
~8月9日

パラリンピック(13日間)

8月25日
~9月6日

選手数

オリンピック

11,090人

パラリンピック

4,400人

競技数・種目数

オリンピック

33競技 339種目

パラリンピック

22競技 539種目

会場

全数

43会場

うち
都外

19会場



職員数

現在(2019年12月1日時点)

3.2千人

大会時(予定)

8.0千人

ボランティア

11万人

大会ボランティアのほか、
都市ボランティアを含む。

2 競技会場

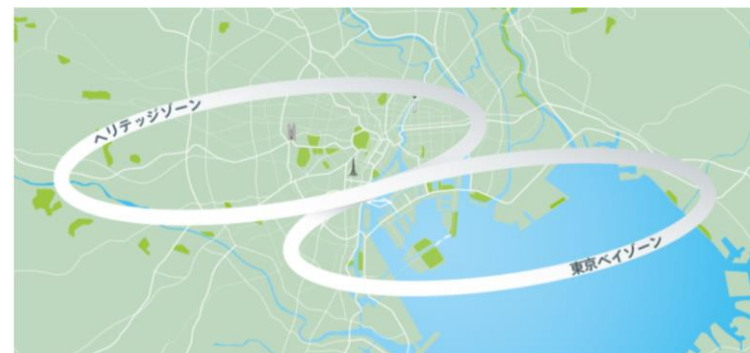
- 競技は東京1964大会のレガシーを引き継ぐ**ヘリテッジゾーン**、都市の未来を象徴する**東京ベイゾーン**のほか、**地方会場**で実施。（約40%が地方会場での開催。）
- 2019年11月にマラソン・競歩の会場が札幌市に変更となり、最終的にオリンピックは**42会場（33競技）**、パラリンピックは**21会場（22競技）**となった。
- 青海、お台場、有明地区において、祝祭空間を創出する**アーバンクラスター構想**が進展。
- 晴海に選手団が宿泊する**選手村を建設**。

【 競技会場等例 】

オリンピックスタジアム（陸上競技・サッカー）



選手村予定地（東京都中央区晴海）



会場詳細は、東京2020組織委員会HPを参照
<https://tokyo2020.org/jp/games/venue/>

3 - 1 競技スケジュール（オリンピック）

- 史上最多 33 競技 339 種目が 42 の競技会場で繰り広げられ、絶え間ない熱狂が 17 日間に凝縮されたエキサイティングなスケジュール。
- 野球・ソフトボール、空手、スケートボード、スポーツクライミング及びサーフィンの 5 競技について、追加競技として実施。
- 大会中盤、多くの観客とテレビ視聴者の注目を集める 8 月 1 日（土）には、21 種目でメダリストが決定。

【 競技スケジュール例 】



競泳（東京アクアティクスセンター）

7月25日（土）～8月2日（日）



体操競技（有明体操競技場）

7月25日（土）～7月30日（木）
8月2日（日）～8月4日（火）



ラグビー（東京スタジアム）

7月27日（月）～8月1日（土）

- オリンピック競技スケジュール（種目実施日程）の詳細は下記URLに記載。
<https://tokyo2020.org/jp/games/schedule/olympic/>

※ 競技スケジュールは今後の調整により、一部変更になる可能性があります。

3 - 2 競技スケジュール（パラリンピック）

- 8月25日の開会式翌日から9月6日の閉幕まで、12日間にわたり22競技539種目が21会場で実施。
- バドミントン及びテコンドーの2競技について、追加競技として実施。
- 大会全体を通じて盛り上がりが続くよう、人気競技がバランスよく配置。

【競技スケジュール例】



車いすテニス（有明テニスの森）

8月28日（金）～9月5日（土）



車いすラグビー（国立代々木競技場）

8月26日（水）～8月30日（日）



ゴールボール（幕張メッセCホール）

8月26日（水）～9月4日（金）

- パラリンピック競技スケジュール（種目実施日程）の詳細は下記URLに記載。

<https://tokyo2020.org/jp/games/schedule/paralympic/>

※ 競技スケジュールは今後の調整により、一部変更になる可能性があります。

4-1 テストイベント

- 本大会の成功に向けて、競技運営及び大会運営の能力を高めることを目的として、各競技団体や東京2020組織委員会などが主催でテストイベントを実施。

- 2020年2月3日現在、全56回のうち37回※が実施済み。

※ 2018年度実施分（2回）含む。



東京2020組織委員会主催のテストイベントで使用するロゴデザイン

【テストイベントスケジュール】

2019						2020				
7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月
WAVE 1（22競技）			WAVE 2（12競技）			WAVE 3（20競技）				



Tokyo 2020 / Shugo TAKEMI

【テストイベントの実施状況】

- ・ 本大会に向けて学びとなる事例はあったものの、MOC（メインオペレーションセンター）で判断を要するようなレベルの問題は発生していない。
- ・ 競技運営は、既存・新設会場とも各競技概ね円滑に実施されており、IFからの評価も概ね良好。

4-2 テストイベント（暑さ対策の試行）

【暑さ対策検討の全体方針】

1 東京2020大会に向けた暑さ対策の全体像

⇒ 対象者ごとに、場面ごとに、国や東京都、IOC、IF/NFと連携して実施

2 対象別の暑さ対策

(1) アスリート向けの暑さ対策 (2) 観客向けの暑さ対策 (3) 大会ボランティアを含む大会スタッフ向けの暑さ対策

3 今夏の取組みを来年度に活かす

暑さ対策検証内容

アスリート向け	・大会本番時を想定した各競技の暑さ対策	・空調付きアスリートラウンジ、水・氷の提供、アイスバス、スポットクーラーおよびミストファンの設置などの基本的な暑さ対策 ・その他、競技特性に応じた個別の暑さ対策
観客向け	・疑似PSA待機列 ・WBGT値計測 ・ファーストレスポnder巡回 ・注意喚起 ・暑さ対策グッズの配布 ・クールオフスペース ・降雪機	・待機列の誘導オペレーション検証 ・大型冷風機、扇風機の運用、携帯型ミスト噴霧 ・テント内外、観客席、木陰、スタッフ用本部、乗降場での計測 ・熱中症予防、水分補給を促すスタッフ巡回 ・体調不良者早期発見、医務室との連携 ・声かけ、丸型穴あきチラシ配布 ・ネッククーラー、丸型穴あきチラシ等の配布(ラストマイル) ・室内WBGT値計測、利用者状況 ・降雪機による効果検証、WBGT値計測
大会スタッフ向け	・休憩の取り方 ・暑さ対策グッズの配布	・一部会場で休憩のローテーション方針を提示し実施。 ・ボランティアにアンケートを行い、適切な休憩時間について検証。 ・全会場で飲料水、一部会場で塩分補給製品、汗拭きシート、冷却シート、アイスクリーム、体調管理シートを配布。 ・ボランティアにアンケートを行い、グッズの有効性を検証。
情報発信	・テストイベントページでの注意啓発情報発信試行 ・国と連携したアンケート調査	・自転車競技（ロード）（マウンテンバイク）のテストイベントページで、熱中症注意喚起情報を発信。 ・環境省、観光庁の御協力のもと、訪日外国人向けアンケートを実施。

5 開会式・閉会式

○ 4式典を一体と捉え、統一あるものとするために全体のプラン・ストーリーを作成していく。

＜4式典のあり方＞

【オリンピック開会式】

- ・国内外からの注目度が非常に高い式典であり、世界から集うアスリートや観客を歓待する。
- ・東京2020大会の幕開けの式典として4つの式典の萌芽である。
- ・東京2020大会の担う歴史的意義や社会的意義、招致時のコンセプトに鑑みて4式典を貫くポジティブなメッセージを世界に発信する。

【パラリンピック開会式】

- ・東京は二度目の夏季パラリンピックを開催する史上初の都市であり、中でも開会式は世界中の注目を集める機会である。
- ・違いを認め合い、支え合い、活かしあうことで、多様で平等な共生社会を目指すことを世界に伝える。
- ・多様なものを様々にかけ合わせることで、既成概念を超えた新しい可能性を探り、人々の意識を変えるきっかけにする。

【オリンピック閉会式】

- ・競技を終えたアスリートの健闘を称える。また、アスリートに限らず、人々の心に感動を残した方々も讃えたい。
- ・アスリートだけでなく観客も巻き込み、国を超えた一体感を生み出す。
- ・その熱気と興奮を、続いて開催されるパラリンピックへと引き継ぐ。

【パラリンピック閉会式】

- ・パラリンピックのフィナーレであるとともに、東京2020大会の全体を締めくくるフィナーレでもある。
- ・持続可能な社会に向けて、「和」の精神に基づき、自然や人間社会がバランスをとり、共存していく新しい時代のスタートラインとする。
- ・世界の調和と明るい未来への可能性を示し、子どもたちや若い世代への継承の場とする。

＜演出企画の実施体制＞（敬称略）

氏名	肩書等	制作体制	氏名	肩書等	制作体制
野村萬斎	狂言師	チーフ・エグゼクティブ・クリエイティブ・ディレクター（東京2020大会総合）	川村元気	映画プロデューサー／小説家	クリエイティブ・ディレクター （東京2020総合チームメンバー）
山崎貴	映画監督	エグゼクティブ・クリエイティブ・ディレクター（オリンピック担当）	来栖良依	クリエイティブプロデューサー クリエイティブディレクター	
佐々木宏	クリエイティブディレクター	エグゼクティブ・クリエイティブ・ディレクター（パラリンピック担当）	椎名林檎	演出家・音楽家	
			MIKIKO	演出振付家	

6 - 1 聖火リレー

- オリンピック聖火リレーコンセプト 「Hope Lights Our Way / 希望の道を、つなごう。」
- パラリンピック聖火リレーコンセプト 「Share Your Light / あなたは、きっと、誰かの光だ。」



2020年3月20日(金)宮城県の航空自衛隊松島基地に聖火を届ける、東京2020オリンピック聖火特別輸送機“TOKYO 2020号”



2020年3月26日(木) 福島県の「ナショナルトレーニングセンターJヴィレッジ」にて聖火リレーがグランドスタート。

東京2020オリンピック聖火リレー 各都道府県 実施日一覧

都道府県名	日 程	都道府県名	日 程	都道府県名	日 程
① 福島県	3/26(木)～3/28(土)	①⑦ 鹿児島県	4/28(火)～4/29(水)	③③ 富山県	6/3(水)～6/4(木)
② 栃木県	3/29(日)～3/30(月)	①⑧ 沖縄県	5/2(土)～5/3(日)	③④ 新潟県	6/5(金)～6/6(土)
③ 群馬県	3/31(火)～4/1(水)	①⑨ 熊本県	5/6(水)～5/7(木)	③⑤ 山形県	6/7(日)～6/8(月)
④ 長野県	4/2(木)～4/3(金)	②⑩ 長崎県	5/8(金)～5/9(土)	③⑥ 秋田県	6/9(火)～6/10(水)
⑤ 岐阜県	4/4(土)～4/5(日)	②⑪ 佐賀県	5/10(日)～5/11(月)	③⑦ 青森県	6/11(木)～6/12(金)
⑥ 愛知県	4/6(月)～4/7(火)	②⑫ 福岡県	5/12(火)～5/13(水)	③⑧ 北海道	6/14(日)～6/15(月)
⑦ 三重県	4/8(水)～4/9(木)	②⑬ 山口県	5/14(木)～5/15(金)	③⑨ 岩手県	6/17(水)～6/19(金)
⑧ 和歌山県	4/10(金)～4/11(土)	②⑭ 島根県	5/16(土)～5/17(日)	④⑩ 宮城県	6/20(土)～6/22(月)
⑨ 奈良県	4/12(日)～4/13(月)	②⑮ 広島県	5/18(月)～5/19(火)	④⑪ 静岡県	6/24(水)～6/26(金)
⑩ 大阪府	4/14(火)～4/15(水)	②⑯ 岡山県	5/20(水)～5/21(木)	④⑫ 山梨県	6/27(土)～6/28(日)
⑪ 徳島県	4/16(木)～4/17(金)	②⑰ 鳥取県	5/22(金)～5/23(土)	④⑬ 神奈川県	6/29(月)～7/1(水)
⑫ 香川県	4/18(土)～4/19(日)	②⑱ 兵庫県	5/24(日)～5/25(月)	④⑭ 千葉県	7/2(木)～7/4(土)
⑬ 高知県	4/20(月)～4/21(火)	②⑲ 京都府	5/26(火)～5/27(水)	④⑮ 茨城県	7/5(日)～7/6(月)
⑭ 愛媛県	4/22(水)～4/23(木)	③⑰ 滋賀県	5/28(木)～5/29(金)	④⑯ 埼玉県	7/7(火)～7/9(木)
⑮ 大分県	4/24(金)～4/25(土)	③⑱ 福井県	5/30(土)～5/31(日)	④⑰ 東京都	7/10(金)～7/24(金)
⑯ 宮崎県	4/26(日)～4/27(月)	③⑲ 石川県	6/1(月)～6/2(火)		

6 - 2 聖火リレー

聖火リレートーチデザイン

- 日本人に最もなじみ深い花である桜をモチーフ。
- 素材の一部に東日本大震災の仮設住宅のアルミ廃材を再利用。
- 新幹線の製造にも使われている製造技術（アルミ押出成形）を使用。

オリンピック聖火リレートーチ パラリンピック聖火リレートーチ



色：桜ゴールド

色：桜ピンク

聖火ランナーユニフォームデザイン

- オリンピックユニフォームは、日本らしさとともに、聖火リレーから東京2020大会の本大会につないでいく、その連続性を表現。
- パラリンピックユニフォームは、人と人、人と社会が繋がることで生まれる輝きを、大会ルックである市松模様をもとにデザイン。



オリンピックユニフォーム



パラリンピックユニフォーム

聖火ランナーの募集状況

- パートナー4者（コカ・コーラ、トヨタ自動車、日本生命、NTT）と、都道府県で聖火ランナーを募集した結果、延べ535,717名の応募（2019年9月）
※ 現在、募集は終了
- 2019年12月25日より、応募者本人へオリンピック聖火ランナー正式決定を連絡。

7 機運醸成に向けた取り組み

- 一人でも多くの方が参画し、大会をきっかけにした成果を未来につなげるため、オリンピック・パラリンピックの機運を醸成。

主なイベント	取組内容
東京2020参画プログラム	様々な組織・団体が東京2020大会の盛り上げ、大会後のレガシー創出を目指し、オールジャパンで取り組む参加型のプログラムを実施（2016年10月～）。 2019年12月末時点で約139,000件を認証。
東京2020 NIPPONフェスティバル	参画プログラムの集大成として世界から注目が集まる時期に東京2020大会公式文化プログラムとして、大規模な4つのプログラムを通して我が国の誇る文化を国内外に強く発信（2020年4月頃～）
オリンピック1年前セレモニー/パラリンピック1年前セレモニー	国内外からゲスト(オリンピック・パラリンピアン、東京2020聖火リレー公式アンバサダー等)をお招きしたセレモニーを行い、1年後にやってくる大会に向け一体感を醸成（2019年7月・8月）
東京2020公式ライセンス商品	全国各地の伝統工芸品を東京2020公式ライセンス商品化。全国各地の伝統工芸品を商品化して文化的側面からも機運醸成を図っている。



1 Year to Go!



8 子どもの参画

【主な取り組み】

- 史上初、**大会マスコットを小学生の投票**で決定。16,769学校・205,755学級（全国の小学校の約8割）の児童たちが参加。
※ 小学部を置く特別支援学校や海外の日本人学校、国内の外国人学校、不登校児童が通う施設等を含む。
- オリンピック・パラリンピック教育に取り組む学校を東京2020オリンピック・パラリンピック教育実施校（愛称「**よいう、ドン！スクール**」）として認証。
※ 2019年12月1日時点で、全国約18,219校を認証済み。
- 平和な世界に向けてスポーツの果たす役割をテーマとした、**東京2020高校生英語スピーチコンテスト**や、運動会や体育祭等におけるオリンピック・パラリンピックに関連した取組を募集し表彰する**みんなのスポーツフェスティバル**の実施。
- 学校連携観戦プログラムとして、チケットを一律**2,020円**で、**子供たちに観戦機会**を提供。（100万人以上の小中高校生に、大会へ観戦に来てもらう試み。）
- セキュリティチェック時に設けるフェンスの代わりに、地元子ども達が育てたアサガオ等にメッセージを添えて並べる「**フラワーレーンプロジェクト**」の実施。
- IPC公認教材である「**I'mPOSSIBLE（アイム・ポッシブル）**」を全校配布。
※ JPC・IPCの取組み



ミライトワとソメイティ



東京2020オリ・パラ教育実施校



ソメイティとともに、
花が咲く日を楽しみに

9 持続可能性

大会の持続可能性コンセプト 「Be better, together（より良い未来へ、ともに進もう。）」

国連とのSDGsの推進協力に関する基本合意書へ署名

2018年11月14日、国際連合と東京2020大会を通じたSDGsの推進協力に関する基本合意書へ署名。

国際連合とSDGsについて基本合意書を締結するのは、歴代のオリンピック、パラリンピック組織委員会として初めての試み。

東京2020大会の持続可能性の取り組み例

1. 都市鉱山からつくる！みんなのメダルプロジェクト

使用済みの携帯電話をはじめとする小型家電等から東京2020大会の入賞メダルを製作。

2. 日本の木材活用リレー ～みんなで作る選手村ビレッジプラザ～

参加自治体（全63自治体）から借り受けた木材を使用して選手村ビレッジプラザを建設し、大会後は各自治体にて木材をレガシーとして再活用。

3. 表彰台プロジェクト ～みんなの表彰台プロジェクト～

国内から集める使用済プラスチックの再生利用を基本に、海洋プラスチックも一部活用して表彰台を製作。



みんなで作る選手村ビレッジプラザ

10 大会ボランティア

- 東京2020組織委員会が募集し、競技会場や選手村、その他大会関連施設で、観客サービスや競技運営のサポート、メディアのサポート等、大会運営に携わる活動を実施。
- 応募完了者は204,680人（大会ボランティアマイページ登録者数262,437人）

募集概要（抜粋）

- ・ 募集人数：80,000人（2002年4月1日以前に生まれた方（18歳以上の方））
- ・ 活動期間・時間：10日以上を基本とし、休憩・待機時間を含む1日8時間程度

- 2019年7月19日（金）の発表イベントにて、フィールドキャスト（大会スタッフ）及びシティキャスト（都市ボランティア）のユニフォームが決定。
- 2019年10月から始まる共通研修において、大会本番に必要な知識・スキルを習得するとともに、フィールドキャストの一員としてのマインドを醸成。

【共通研修の概要】

- ・ 対象者：大会ボランティア8万人
- ・ 期間：2019年10月～2020年2月
（海外在住者向けは2020年6月以降）
- ・ 開催場所：東京、北海道、宮城、福島、茨城、富山、静岡、愛知、大阪、広島、福岡
- ・ 男女比：男性39%、女性61%（10代～80代まで幅広く参加予定）
- ・ 国籍：日本国籍88%、日本国籍以外12%（約120カ国の方が参加予定）



ユニフォーム発表イベント

11 大会チケット

○ 東京2020大会公式チケット販売サイトを通じて大会観戦チケット抽選申込を開始。

チケットの価格	開会式	閉会式	競技一般チケット
オリンピック	12,000円～300,000円	12,000円～220,000円	2,500円～130,000円
パラリンピック	8,000円～150,000円	8,000円～90,000円	900円～7,000円

チケットスケジュール		
オリンピック	2019年5月9日～5月29日	第1次抽選販売（約322万枚）
	2019年8月8日～8月19日	第1次抽選の追加抽選販売（約35万枚） ※第1次抽選で1枚も当選しなかった方対象
	2019年11月13日～11月26日	第2次抽選販売
	2020年春～	- 公式チケット販売サイト - 街なかのチケット販売所 - 公式リセール
パラリンピック	2019年8月22日～9月9日	第1次抽選販売（約60万枚）
	2020年1月～	第2次抽選販売
	2020年春～	- 公式チケット販売サイト - 街なかのチケット販売所 - 公式リセール



※大会計画や競技スケジュール等により、価格や販売開始時期等は変更となる場合があります。

12 メダルデザイン

- メダルは「都市鉱山からつくる！みんなのメダルプロジェクト」を通じて、全国の皆様からご提供いただいた使用済み携帯電話等の小型家電から抽出した金属を用いて製作。
- 東京 2020 オリンピック、パラリンピック それぞれの1年前セレモニーにてメダルのデザインを発表。

【東京2020オリンピックメダルデザイン】



- ・ 光や輝きをテーマ。
- ・ 無数の光を集めて反射させ、アスリートや周りで支えている人たちのエネルギーを象徴。
- ・ 多様性を示す、様々な輝きをもたらすデザイン。
- ・ メダルの輝きは、世界中の人々が手をつないでいる様子もイメージ。

【東京2020パラリンピックメダルデザイン】



- ・ 人々の心を束ね、世界に新たな風を吹き込む「扇」をモチーフにしたデザイン。
- ・ 扇を束ねる「要」部分に、人々の心を束ねるアスリート自身を表現。「扇」面に、人々の心を生命力として捉え、日本に生きる自然を表現。
- ・ 金、銀、銅メダルの違いが触れて分かるよう、メダル側面に円形のくぼみ加工。大会史上初めての仕様。
- ・ 「TOKYO2020」の文字をおもて面にて点字で表記。

13 復興に関する取り組み

オリンピック聖火リレー

- 聖火リレー開催に先立ち、ギリシャで採火した聖火を「復興の火」として東日本大震災の被災3県（岩手、宮城、福島）で順次展示。聖火トーチの素材には、東日本大震災の仮設住宅のアルミを一部使用。
- オリンピック聖火リレーの出発地を福島県とするとともに、被災3県については、各県3日間を設定。

福島あづま球場・宮城スタジアム

- 福島あづま球場で野球・ソフトボールを実施。宮城スタジアムでサッカーを実施。
- 2020年7月22日、福島あづま球場のソフトボールが、オリンピックの全競技のスタートとなる。

復興のモニュメント

- 東日本大震災の仮設住宅のアルミを使用し、被災地からのメッセージを載せたモニュメントを、被災3県に1つずつ設置し、被災地と世界を結びつける。
- 被災地の中高生によるワークショップでデザインイメージを決定。大会後は被災地においてレガシーとして継承。

若手アスリート参画プロジェクト

- 被災地で行われたイベントにアスリートを派遣し、スポーツ等を通して被災地の子どもたちとの交流を実施。

14 組織委員会予算V 4

○組織委員会予算V 4 (バージョン4)を公表。(2019.12.20)

○東京都と国が負担するその他の経費のうち、東京都分はV3 から競歩の競技会場変更に伴う30 億円減の5,970億円、国分はV3 同額の1,500 億円で合計7,470 億円となり、組織委員会6,030 億円と合わせた大会経費の支出計は1 兆3,500 億円で、V3と同額。

【参考】 経費分担試算(V 4 予算)

	組織委員会	東京都	国	支出計
会場関係	1,870 億円 (400 億円)	4,960 億円 (200 億円)	1,400 億円 (200 億円)	8,230 億円 (800 億円)
恒 久 施 設	—	2,260 億円	1,200 億円	3,460 億円
仮 設 等	1,010 億円	2,020 億円	200 億円	4,770 億円
エ ネ ル ギ ー イ ン フ ラ	160 億円	330 億円		
テ ク ノ ロ ジ ー	700 億円	350 億円		
大会関係	4,060 億円 (200 億円)	910 億円 (100 億円)	100 億円 (100 億円)	5,070 億円 (400 億円)
輸 送	410 億円	300 億円	100 億円	5,070 億円
セ キ ュ リ テ ィ	330 億円	520 億円		
オ ペ レ ー シ ョ ン	1,240 億円	90 億円		
管 理 ・ 広 報	650 億円	0 億円		
マ ー ケ テ ィ ン グ	1,250 億円	0 億円		
そ の 他	180 億円	0 億円		
調整費(組織委員会)／緊急対応費(東京都)	100 億円	100 億円	—	200 億円
支 出 計	6,030 億円 (600 億円)	5,970 億円 (300 億円)	1,500 億円 (300 億円)	13,500 億円 (1,200 億円)
予 備 費	270 億円			

(注1) 予期せず発生し得る事態等に対処する必要が生じた場合、関係者は役割分担に応じて対応する。

(注2) ()は、うちパラリンピック経費分である。

みんなの輝き、つなげていこう。

Unity in Diversity



The Worldwide Olympic Partners



Tokyo 2020 Olympic Gold Partners



The Worldwide Paralympic Partners



Tokyo 2020 Paralympic Gold Partners





資料 2

アスリート委員会の活動報告について

2019年の活動報告

TOKYO2020アスリート委員によるアンケート調査

- 外部有識者による検討委員会「東京2020大会選手村メニューアドバイザー委員会」を開催し、専門的知見や意見をいただき、よりアスリートの満足が得られるようなメニュー案を検討した。アンケートにより東京2020アスリート委員会全委員よりアスリートならではの意見を集めた。
- 今後は、全てのアスリートがコンディションを維持、自己ベストを達成できるよう、スポーツ栄養の知見を踏まえ、かつ日本の食文化発信の観点も取り入れたメニューを検討する。

実施日程：2019年4月～

実施場所：大会組織委員会

参加アスリート委員：

高橋 尚子委員長（マラソン：シドニー）

池田 信太郎 委員（バドミントン：北京、ロンドン）

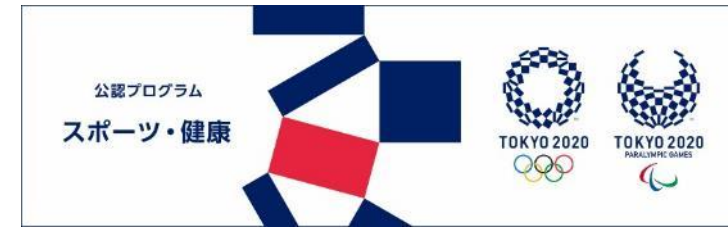
田口 亜希 委員（射撃：アテネ、北京、ロンドン）

参加者：他外部有識者



ワーキンググループ1の活動報告について 2

Sport in Life プロジェクト



- スポーツを行うことが生活習慣の一部となる、一人でも多くの方がスポーツに親しむ社会を実現していく。そして健康で活力ある社会へ自治体・スポーツ界・経済界などが一体となり、国民のスポーツ参画を促進するプロジェクト。みんなでスポーツ参画のムーブメントを拡げ、2020年東京大会のレガシーを創出していくプロジェクト。

実施日程：2019年7月01日（日）

実施場所：スポーツ庁

参加アスリート委員：高橋 尚子 委員長（マラソン：シドニー）

参加者：スポーツ庁 鈴木長官



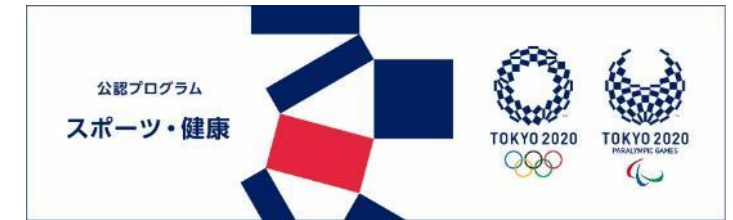
パートナーとのエンゲージメント

- パートナー企業17社及び組織委員会から、家族をあわせて総勢約2千人が集まり、アスリート委員のほか、各企業に所属しているアスリート達と一緒に、運動会でよく知られている「玉入れ」や「リレー」等を行ない、参加者全員で東京五輪音頭-2020-を踊った。

- 実施事業：PARTNER SPORT DAY 2019
- 実施日程：2019年6月22日（土）
- 実施場所：さいたまスーパーアリーナ コミュニティアリーナ
- 参加アスリート：
 - ・ 高橋 尚子 委員長（マラソン：シドニー）
 - ・ 河合 純一 副委員長（水泳：バルセロナ～ロンドン）
 - ・ 田口 亜希 委員（射撃：アテネ、北京、ロンドン）

- 参加パートナー：

主催（共同） 株式会社アシックス／JXTGエネルギー株式会社／日本電気株式会社
／日本電信電話株式会社／野村ホールディングス株式会社／三井不動産株式会社
／株式会社明治／キッコーマン株式会社／KNT-CTホールディングス株式会社
／株式会社 JTB／大日本印刷株式会社／東武トップツアーズ株式会社
／日本郵政株式会社／久光製薬株式会社／三菱電機株式会社／清水建設株式会社
／株式会社乃村工藝社



羽田空港における長大手荷物の搬入検証について

- 大会で使用する選手の長大手荷物をどのように選手に引き渡しするのかについて議論・意見交換した。

実施日程：2019年2月20日（水）

関連FA：NCS、AND、

参加アスリート委員：

三浦 恵子 委員（ホッケー：アテネ、北京）

参加アスリート：

花岡 伸和（車いすマラソン：アテネ、ロンドン）

増子 恵美（車いすバスケットボール：アトランタ～北京）



ワーキンググループ2の活動報告について 2

選手村計画に関するレビュー

- 選手村の計画に関し、アスリートの視点に基いてコメントした。

実施日程：2019年3月28日（木）

関連FA： VIL、NCS

参加アスリート委員：

【オリンピック】

池田 信太郎 委員（バドミントン：北京、ロンドン）

【パラリンピアン】

河合 純一 副委員長（水泳：バルセロナ～ロンドン）

田口 亜希 委員（射撃：アテネ、北京、ロンドン）

【敬称略：50音順】



NOC選手団団長セミナー

●選手団団長セミナーにおいて、アスリート委員の活動により、東京2020の計画がアスリートファーストを確実にしていることを紹介した。

実施日程：2019年8月19日（月）

関連FA>：NCS

参加アスリート委員：

【オリンピック】

上山 容弘 委員（トランポリン：北京、ロンドン）

齊藤 里香 委員（ウェイトリフティング：北京）

菅原 智恵子 委員（フェンシング：アテネ：北京：ロンドン）

【パラリンピアン】

河合 純一 副委員長（水泳：バルセロナ～ロンドン）

田口 亜希 委員（射撃：アテネ、北京、ロンドン）

【TOKYO2020】

伊藤 華英

【敬称略：50音順】



NPC選手団団長セミナー

●選手団団長セミナーにおいて、アスリート委員の活動により、東京2020の計画がアスリートファーストを確実にしていることを紹介した。

実施日程：2019年9月9日（月）

関連FA：VIL、NCS

参加アスリート委員

【オリンピック】

上山 容弘 委員（トランポリン：北京、ロンドン）

【パラリンピアン】

河合 純一 副委員長（水泳：バルセロナ～ロンドン）

田口 亜希 委員（射撃：アテネ、北京、ロンドン）



【敬称略：50音順】

ワーキンググループ 2 の活動報告について 5

3月下旬まで 広報映像撮影

令和2年度の計画については、令和2年3月末までに内容検討



全10回アスリート委員会/ワーキンググループ1(WG1) 振り返り

アスリート・ファーストの大会を実現するために

アスリート委員会が、これまで進めてきた、大会エンゲージメント、アクション&レガシー、アスリート・ファーストの大会実現に向けた様々な取組みが、より機能的に行えるように、委員会の下に2つのワーキンググループ（WG）を設置し、活動を開始（2016年7月～）

アスリート委員会

WG 1

大会エンゲージメント／アクション&レガシーの推進



東京2020大会に向けたエンゲージメント推進やレガシー創出に寄与する取組や意見交換を行う

WG 2

大会準備運営／大会サービスへの示唆



東京2020大会におけるアスリート向けのサービスレベルを設定するプロセスに関与し、支援を行う

全10回のアスリート委員会の振り返り

第1回アスリート委員会

- 1964年東京オリンピックの開会式からちょうど50年目となる2014年10月10日、2020年の東京オリンピック・パラリンピックに向け、第1回アスリート委員会を開催した。委員長鈴木大地氏・副委員長河合純一氏として委員会が発足した。
- 委員会では、選手村からの移動や言語の問題をどう解決していくか、またパラリンピックを見据えてバリアフリー化をどう進めていくべきかなどの意見交換を行った。
- アスリート視点の貴重な意見は、その後5年半超に及ぶ、大会準備の基礎的な指針となった。

日 程：2014年10月10日（金）

場 所：ヒルトン東京

主な議題：組織委員会の取組状況

大会ビジョンに関する意見交換



全10回のアスリート委員会の振り返り

第2回アスリート委員会

- 前回委員会から約3か月後の2015年1月29日、第2回アスリート委員会を開催した。
- 単に2020年に東京で行われるスポーツの大会としてだけでなく、2020年以降も含め、日本・世界全体に対し、様々な分野でポジティブなレガシーを残す大会とするため「アクション&レガシープラン」を、リオ大会前に策定することとし、今後、アスリート委員会でも議論を行うこととした。
- 大会開催基本計画(GFP)について、オリンピック・パラリンピックに出場した経験やアスリートの視点からご意見をいただいた。その後組織委員会は、同年2月27日に大会開催基本計画をIOC、IPCに提出した。

日 程：2015年1月19日（月）

場 所：ハイアットリージェンシー東京

主な議題：大会開催基本計画

アクション&レガシープラン



全10回のアスリート委員会の振り返り

第3回アスリート委員会

- 第3回アスリート委員会は、初めての虎ノ門ヒルズ開催となった。
- 委員会では、策定中のアクション&レガシープランのスポーツ・健康分野について、2020年大会以降、どのようなレガシーを残すべきか、それに向けてどのようなアクションを行うか、その際のアスリートが果たす役割などについて意見交換を行った。
- 高橋尚子委員(※当時)から、数多くの来場者がある東京マラソンEXPOの際、マラソン以外の競技紹介を行うことで、様々なオリンピック・パラリンピック競技の認知向上というレガシーになるのではないかという意見があった。その後、2016年から2018年のEXPOにて、アスリート委員会主催のステージイベントを実施した。

日 程：2015年6月25日（木）

場 所：虎ノ門ヒルズ内会議室

主な議題：アクション&レガシープラン
大会準備の進捗状況



全10回のアスリート委員会の振り返り

第4回アスリート委員会

- 鈴木大地委員長がスポーツ庁長官に就任したことに伴い、新たに高橋尚子氏が委員長に就任した。
- 前回委員会に引き続き、策定中のアクション&レガシープランのスポーツ・健康分野について、意見交換を行った。
- 特に、①誰もがスポーツを「する・観る・支える」社会の実現、②社会（地域）のロールモデルとなるアスリートの育成、③パラリンピックを契機とした共生社会の実現という3つの重点的検討テーマに設定し、プラン作成に向けて議論を深めた。

日 程：2015年10月26日（月）

場 所：虎ノ門ヒルズ内会議室

主な議題：アクション&レガシープラン
大会準備の進捗状況



第5回アスリート委員会

- ▶ 前回委員会に引き続き、策定中のアクション&レガシープランのスポーツ・健康分野について、2020年大会以降、どのようなレガシーを残すべきか、それに向けてどのようなアクションを行うか、その際のアスリートが果たす役割などについて意見交換を行った。
- ▶ また、リオ大会における東京大会のPRポイント・東京2020大会の選手村に期待することについて、委員会後、アスリート委員にアンケートを実施することとした。
- ▶ 寄せられた意見は、各取組の重要な検討材料となった。

日 程：2015年12月21日（月）

場 所：虎ノ門ヒルズ内会議室

主な議題：アクション&レガシープランの中間報告案
リオデジャネイロ2016大会に向けた取組
東京2020大会の選手村



第6回アスリート委員会

- 「大会の顔」となるボランティアについて、期待することや望まれる要件について意見交換を行った。それらの意見も踏まえ、2016年12月に「東京2020大会に向けたボランティア戦略」を策定公表した。
- 前回委員会までの議論を踏まえ、2016年1月アクション&レガシープラン2016中間報告を公表した。そして、今回委員会で更に議論を深め、7月にはアクション&レガシープラン2016を策定公表した。
- 大会準備にアスリートの意見をより一層活かせる体制を構築するため、委員会の下に、WG1・WG2の2つのワーキンググループを設置した。

日 程：2016年7月12日（火）

場 所：虎ノ門ヒルズ内会議室

主な議題：TOKYO2020大会ボランティアプログラム
アクション&レガシープラン2016策定
アスリート委員会の今後の運営



全10回のアスリート委員会の振り返り

第7回アスリート委員会

- ▶ 前回委員会で設置を決定した2つのワーキンググループについて、活動状況を報告し、今後の活動について議論を行った。
- ▶ WG1については、リオ大会ライブサイトやフラッグツアーイベントにアスリート委員が参加し、WG1のミッションである大会エンゲージメントの推進に向けて着実に活動を行っていることが報告された。
- ▶ 東京大会の開閉会式について、過去大会に出場した経験などから意見交換を行った他、2017年4月から開始するメダルプロジェクトについて、アスリート委員会としても様々な形で協力していくことを確認した。

日 程：2017年2月17日（金）

場 所：虎ノ門ヒルズ内会議室

主な議題：アスリート委員会の活動報告

開閉会式に向けた基本方針

都市鉱山からつくる！みんなのメダルプロジェクト



全10回のアスリート委員会の振り返り

第8回アスリート委員会

- 会議の冒頭、各委員が不要になった携帯電話等を持ち寄り回収ボックスに投入して、メダルプロジェクトのPRを行った。
- 前回委員会に引き続き、2つのワーキンググループについて、活動状況を報告した。WG1では、新たに大会パートナー企業と連携した取り組みを行い、その様子も報告された。
- 東京2020大会入賞メダルについて、委員の意見を踏まえ、パラリンピックメダルには、金銀銅で異なる数のくぼみがほどこされ、違いが触れて分かるようにされた。このくぼみ加工は、大会史上初めての仕様となった。

日 程：2017年7月12日（金）

場 所：虎ノ門ヒルズ内会議室

主な議題：アスリート委員会の活動報告

東京2020大会入賞メダル



全10回のアスリート委員会の振り返り

第9回アスリート委員会

- 平昌オリンピック・パラリンピックの直前となる2018年1月、第9回アスリート委員会を開催した。
- 平昌大会に関しては、及川委員が聖火リレーランナーとして参加することや、都内や被災地でのライブサイトイベントへ委員が出演するといった協力を行うことを確認した。
- WG2については、実際に競技会場、選手村や成田空港を視察し、特にパラリンピアンの立場から、選手移動等について、意見交換を行ったことが報告された。

日 程：2018年1月29日（月）

場 所：虎ノ門ヒルズ内会議室

主な議題：東京2020参画プログラム

アスリート委員会が関係する大会準備活動



全10回のアスリート委員会の振り返り

第10回アスリート委員会

- 組織委員会が晴海に移転するため、虎ノ門ヒルズでは最後の委員会となった。
- 会議の冒頭、アスリート委員会としてもダイバーシティ＆インクルージョンの趣旨に賛同し、その宣言を行った。
- 全国の子供たちにスポーツへの関わり方（する・観る・支える）やオリンピック・パラリンピックの価値・意義を学んでいただくことを目的として、アスリート委員会が主催となり東京2020みんなのスポーツフェスティバルを実施することとした。

日 程：2019年2月8日（金）

場 所：虎ノ門ヒルズ内会議室

主な議題：ダイバーシティ＆インクルージョンの推進
東京2020みんなのスポーツフェスティバル



WG 1の活動について

<所管事項>

- アクション&レガシープラン（スポーツ・健康分野）の推進
- 大会エンゲージメントの推進

ミッション：大会エンゲージメントとレガシー創出に寄与するアクションを推進するため、委員会での議論等（アスリートの視点）を、今後の取組に活かす。

<主な取組内容>

① 大会エンゲージメント活動への協力

リオ大会期間中のライブサイトや、フラッグツアーなど、東京2020大会へ向けた主要なエンゲージメント活動（イベント等）へアスリート委員が協力

② 今後の取組に向けた意見交換等

アスリート委員とともに、大会スポンサー、ステークホルダー等の関係者が、大会の盛り上げやレガシー創出につながるアクションをオールジャパンで推進するため、具体的テーマのもとに意見交換し、今後の取組につなげる。



アスリートが大会エンゲージメントを推進するアクションをリード

ライブサイト（リオ・平昌）

WG 1 の取組状況 – 大会エンゲージメントの推進 –

東京 2020 ライブサイト in 2016 –リオから東京へ–

- リオ2016大会のオリンピック・パラリンピック期間において、本委員会と東京都は、JOC・JPC等と協力して、ライブサイトを都内2箇所、東北3県で開催した。期間中、合計35万人の来場者があった。
- このライブサイトに、アスリート委員が協力し、競技放送の解説等を行った。

実施日程：2016年8月6日（土）～9月19日（月）

実施場所：東京都、岩手県、宮城県、福島県

参加アスリート委員：

河合 純一 副委員長、田口 亜希 委員

萩原 智子 委員、齋藤 里香 委員*

*齋藤 委員はライブサイトが台風により中止となりご出演なし



過去の主な広報活動

国内 -東京 2020 ライブサイト in 2018 -

- 目的： 東京2020大会におけるライブサイトの実施に向けて、運営・実施方法などの課題への対応を検証するとともに、東京2020大会の機運醸成を図ることを目的として、平昌2018冬季大会の開催とあわせてライブサイトを実施

- 主催： 東京2020組織委員会・東京都



リオ2016大会時の国内ライブサイトの様子

- 実施概要：

オリンピック期間					パラリンピック期間	
2/10 (土) ~ 2/12 (月・祝)	2/17 (土)	2/18 (日)	2/22 (木) ~ 2/24 (土)	2/24 (土)	3/10 (土)	3/17 (土) 3/18 (日)
東京都 井の頭恩賜公園	宮城県 JR仙台駅 2 階 セントゲラ前	福島県 郡山駅 西口駅前広場	東京都 シンボルプロム ナード公園	岩手県 盛岡駅前 滝の広場	熊本県 (仮称)花畑広場	東京都 日比谷公園
開場時間：10:00～17:00（予定）						

- アスリート委員の出演 2/10 河合 副委員長、2/12田口 委員、2/22池田 委員

フラッグツアー

WG 1 の取組状況 – 大会エンゲージメントの推進 –

東京2020オリンピック・パラリンピックフラッグツアー <被災 3 県>

- オリンピック・パラリンピックフラッグが東日本大震災の被災地の中で初めて福島県に到着し、それぞれ福島県知事に手渡された。
- 地元福島県出身のアスリート委員である萩原美樹子氏がステージに登壇し、東京2020大会への期待感などを語ったほか、地域の子どもたちと一緒にフラッグを振り、交流を図った。

実施日時：2016年11月2日（水）

実施場所：福島県庁前広場

参加したアスリート委員：萩原 美樹子 委員



Photo by Tokyo 2020

WG 1 の取組状況 – 大会エンゲージメントの推進 –

東京2020オリンピック・パラリンピックフラッグツアー＜被災3県＞

- オリンピック・パラリンピックフラッグが東日本大震災の被災地の中で、福島県に引き続き宮城県に到着し、宮城県知事に手渡された。
- 地元宮城県出身のアスリート委員である菅原智恵子氏がステージに登壇し、地元の子供たちへ東京2020大会へのメッセージを送ったほか、地元の子どもたちによる復興ソングの合唱も行われ、オリンピック、パラリンピアンと子どもたちとの交流も図られた。

実施日時：2017年2月9日（木）

実施場所：宮城県庁 1F 県民ロビー

参加したアスリート委員：菅原 智恵子 委員



Photo by Tokyo 2020

WG 1 の取組状況 – 大会エンゲージメントの推進 –

東京2020オリンピック・パラリンピックフラッグツアー〈都内区市町村〉

- 組織委員会、東京都、JOC、JPCは、12月10日（土）、「東京2020オリンピック・パラリンピックフラッグツアー」の一環として、東京都稲城市において、フラッグ歓迎セレモニーを開催。
- 田口委員コメント

「フラッグを稲城市の皆さんに無事に届けられてホッとしている。私もリオ2016大会に行ったが、すごく盛り上がっていた。この興奮が2020年に東京で見られると思うととても楽しみであり、皆さんもこのフラッグを見て2020年の東京大会に思いを馳せていただきたい。」

実施日時：2016年12月10日（土）

実施場所：稲城市総合体育館総合ロビー1階

参加したアスリート委員：田口 亜希 委員



Photo by Tokyo 2020

WG 1 の取組状況 – 大会エンゲージメントの推進 –

東京2020オリンピック・パラリンピックフラッグツアー＜都内区市町村＞

- 組織委員会、東京都、JOC、JPCは、1月30日（土）、「東京2020オリンピック・パラリンピックフラッグツアー」の一環として、東京都渋谷区において、フラッグ歓迎セレモニーを開催。
- 廣瀬委員コメント

「日本からの応援があったからこそリオデジャネイロでは銀メダルという結果につなげることが出来ました。東京2020大会もオリンピックもパラリンピックもぜひ一緒に盛り上げていきましょう。」

実施日時：2017年1月30日（日）

実施場所：渋谷区シニア・いきいきケアコミュニティ・美竹の丘

参加したアスリート委員：廣瀬 隆喜 委員



Photo by Tokyo 2020

WG 1 の取組状況 – 大会エンゲージメントの推進 –

東京2020オリンピック・パラリンピックフラッグツアー <都内区市町村>

- 組織委員会、東京都、JOC、JPCは、2月11日（土）、「東京2020オリンピック・パラリンピックフラッグツアー」の一環として、東京都板橋区において、フラッグ歓迎セレモニーを開催。
- 萩原委員コメント

「2020年はオリンピックを直に生で見られる凄く良い機会なので、ボランティアでも選手を応援するだけでも良いので、是非みんなで盛り上げていきましょう！」

実施日時：2017年2月11日（土）

実施場所：板橋区小豆沢体育館

参加したアスリート委員：萩原 美樹子 委員



Photo by Tokyo 2020

WG 1 の取組状況 – 大会エンゲージメントの推進 –

東京2020オリンピック・パラリンピックフラッグツアー <都内区市町村>

- 組織委員会、東京都、JOC、JPCは、2月18日（土）、
「東京2020オリンピック・パラリンピックフラッグツアー」の一環として、
東京都青梅市において、フラッグ歓迎セレモニーを開催。
- 高橋委員長コメント
「会場での声援が多くのアスリートにとって限界を超える最後の一押しになります。
是非、応援・観戦に会場に来てください。皆さんの応援が選手の力になります。
青梅から東京2020大会を盛り上げていきましょう！」

実施日時：2017年2月18日（土）

実施場所：青梅市総合体育館

参加アスリート委員：高橋 尚子 委員長



Photo by Tokyo 2020

WG 1 の取組状況 – 大会エンゲージメントの推進 –

東京2020オリンピック・パラリンピックフラッグツアー＜都内区市町村＞

- 組織委員会、東京都、JOC、JPCは、2月24日（金）、
「東京2020オリンピック・パラリンピックフラッグツアー」の一環として、
東京都豊島区において、フラッグ歓迎セレモニーを開催。
- 池田委員コメント
「オリンピック・パラリンピックは、200か国以上の方々が日本に訪れること
となります。この機会に是非、豊島区から大きなムーブメントを起こせる
よう皆さまの協力を期待しております。」

実施日時：2017年2月24日（金）

実施場所：豊島区役所1Fセンタースクエア

参加アスリート委員：池田 信太郎 委員



Photo by Tokyo 2020

WG 1 の取組状況 – 大会エンゲージメントの推進 –

東京2020オリンピック・パラリンピックフラッグツアー＜都内区市町村＞

- 組織委員会、東京都、JOC、JPCは、3月4日（土）、
「東京2020オリンピック・パラリンピックフラッグツアー」の一環として、
東京都文京区において、フラッグ歓迎セレモニーを開催。
- 池田委員コメント
「2008年の北京大会では、まずオリンピックという大舞台に感動し、
2012年のロンドン大会では、観客やボランティアの受入れの素晴らしさが
印象に残っています。」

実施日時：2017年3月4日（土）

実施場所：文京シビックセンター区民のひろば

参加アスリート委員：池田 信太郎 委員



Photo by Tokyo 2020

WG 1 の取組状況 – 大会エンゲージメントの推進 –

東京2020オリンピック・パラリンピックフラッグツアー＜都内区市町村＞

- 組織委員会、東京都、JOC、JPCは、3月18日（土）、
「東京2020オリンピック・パラリンピックフラッグツアー」の一環として、
東京都江戸川区において、フラッグ歓迎セレモニーを開催。
- 田口委員コメント
「江戸川区はカヌー・スラローム競技会場となっております。
東京2020大会に向けて、皆さんの関心の高さをオリンピック・
パラリンピックへの応援に繋げてほしい。」

実施日時：2017年3月18日（土）

実施場所：タワーホール船堀

参加アスリート委員：田口 亜希 委員



Photo by Tokyo 2020

WG 1 の取組状況 – 大会エンゲージメントの推進 –

東京2020オリンピック・パラリンピックフラッグツアー＜都内区市町村＞

- 組織委員会、東京都、JOC、JPCは、4月29日（土）、
「東京2020オリンピック・パラリンピックフラッグツアー」の一環として、
東京都三鷹市において、フラッグ歓迎セレモニーを開催。
- 田口委員コメント
「パラリンピックは競技のことをまだまだ知らない方も多いと思いますので、
まずは2020年までに開かれるパラリンピック種目の競技大会会場に足を
運んでいただき、競技や選手を知り、応援していただければと思います。」

実施日時：2017年4月29日（土）

実施場所：三鷹中央防災公園・元気創造プラザ

参加アスリート委員：田口 亜希 委員



Photo by Tokyo 2020

WG 1 の取組状況 – 大会エンゲージメントの推進 –

オリンピック・パラリンピックフラッグ歓迎イベント<岩手県遠野市>

- 組織委員会と東京都は、2月28日（火）、
「東京2020オリンピック・パラリンピックフラッグツアー」の一環として、
岩手県遠野市において、フラッグ歓迎セレモニーを開催。
- 萩原委員からのオリンピック・パラリンピックの素晴らしさを伝える講演、
体育館でのボールを使ったレクリエーションなどを通じて、
子どもたちにオリンピック・パラリンピックの価値や
東京2020大会の魅力等を伝えることができた。

実施日時：2017年2月28日（火）

実施場所：遠野市立遠野東中学校

参加アスリート委員：萩原 美樹子 委員



Photo by Tokyo 2020

WG 1 の取組状況 – 大会エンゲージメントの推進 –

オリンピック・パラリンピックフラッグ歓迎イベント<宮城県石巻市>

- 組織委員会と東京都は、3月6日（月）、
「東京2020オリンピック・パラリンピックフラッグツアー」の一環として、
宮城県石巻市において、フラッグ歓迎セレモニーを開催。
- 関根委員からの講演では、一流のアスリートはみんな夢に向かって努力をしていること
などが語られた他、体育館では正しい姿勢で楽に走るレクチャーなどが行われ、
子どもたちにオリンピック・パラリンピックの価値や東京2020大会の魅力等を
伝えることができた。

実施日時：2017年3月6日（月）

実施場所：石巻市立貞山小学校

参加アスリート委員：関根 明子 委員



Photo by Tokyo 2020

WG 1 の取組状況 – 大会エンゲージメントの推進 –

オリンピック・パラリンピックフラッグ歓迎イベント<熊本県熊本市>

- 組織委員会と東京都は、5月31日（水）、
「東京2020オリンピック・パラリンピックフラッグツアー」の一環として、
熊本県熊本市において、フラッグ歓迎セレモニーを開催。
- 齋藤委員からのオリンピックへの挑戦を題とした講演、体育館でのウェイトリフティングの
動作を取り入れた実技体験などを通じて、子どもたちにオリンピック・パラリンピックの
価値や東京2020大会の魅力等を伝えることができた。

実施日時：2017年5月31日（水）

実施場所：熊本市立帯山中学校

参加アスリート委員：齋藤 里香 委員



Photo by Tokyo 2020

オリンピック・パラリンピックフラッグ フラッグツアー小中学校訪問イベント

- 「東京2020オリンピック・パラリンピックフラッグツアー」の一環として、日本各地でフラッグツアー小中学校訪問イベントを開催。
- 委員が講師となり、実技や昼食交流を通じて、子どもたちにオリンピック・パラリンピックの価値や東京2020大会の魅力等を伝える取組みである。

【小中学校訪問イベントの構成】

①フラッグ引継ぎ セレモニー・講演

フラッグ引継ぎセレモニー
講演／質疑応答
集合写真



②給食

アスリートと児童・生徒
と一緒に昼食を食べ、
交流を図る。



③実技

アスリートと一緒に実
技で交流し、スポーツ
の魅力に触れます。





日時：2018年10月12日（金）
場所：岐阜県各務原市立那加中学校
委員：高橋 尚子 委員長



日時：2018年8月24日（金）
場所：奈良県天理市天理大学
委員：穴井 隆将 委員



日時：2018年2月2日（金）
場所：大牟田市立天領小学校
参加委員：不老 安正 委員



日時：2019年3月15日（金）
場所：山梨県丹波山村立丹波中学校
参加委員：萩原 智子 委員
※丹波山村と小菅村の小中学校の
合同実施



日時：2018年9月10日（月）
場所：鳥取県鳥取盲学校
委員：河合 純一 副委員長



日時：2018年10月11日（木）
場所：京都府舞鶴市立明倫小学校
委員：齋藤 里香 委員



日時：2018年12月20日（木）
場所：大阪府泉佐野市立佐野台
小学校
委員：上山 容弘 委員



日時：2018年12月20日（木）
場所：大阪府泉佐野市立佐野台
小学校
委員：田口 亜希 委員

東京マラソン

WG 1 の取組状況 – 大会エンゲージメントの推進 –

アスリート・スペシャル・トークセッション2016 「走り出そう、東京マラソンから東京2020大会へ」

- 昨年2月27日(年)、一般財団法人東京マラソン財団の協力を得て、東京マラソン EXPO2016の会場において、高橋委員長をはじめとするアスリート委員有志によるステージイベントを開催した。
- リオ大会に向けたオリンピック・パラリンピックの競技の魅力や10周年を迎えた東京マラソンについて、トークセッションを行い、多くの来場者があった。

実施日程：2016年2月27日（土）

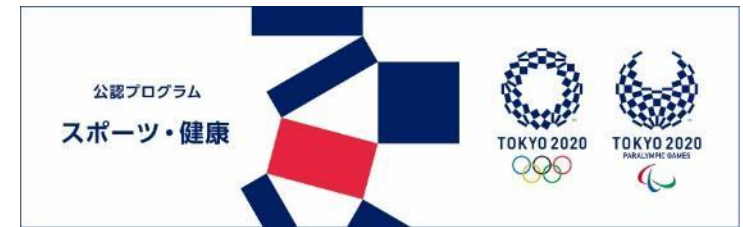
実施場所：東京ビッグサイト（東京マラソンEXPO2016会場内）

参加したアスリート委員：高橋 尚子 委員長、河合 純一 副委員長
田口 亜希 委員、廣瀬 隆喜 委員
三浦 恵子 委員



WG 1 の取組状況 – 大会エンゲージメントの推進 –

アスリート・スペシャル・トークセッション2017 「スポーツの力でみんなが輝く社会へ」



- 昨年に引き続き、組織委員会は、2月25日(土)一般財団法人東京マラソン財団の協力を得て、東京マラソンEXPO2017の会場において、リオパラリンピック銅メダリスト 芦田創選手をゲストに招いたステージイベントを開催した。
- リオ2016大会でのアスリートの活躍を振り返り、オリンピック・パラリンピックの競技の魅力や東京2020大会への想いなどについて、トークショーを実施した。

実施日程：2017年2月25日(土)

実施場所：東京ビッグサイト

参加アスリート委員：高橋 尚子 委員長

田口 亜希 委員

ゲストアスリート：芦田 創 選手

(リオパラリンピック銅メダリスト)



アスリート・スペシャル・トークセッション2018 「違いを乗り越えて一つに」



- 昨年・一昨年に引き続き、アスリート委員会では、一般財団法人東京マラソン財団の全面協力を得て、東京マラソン2018前日祭において、ステージイベントを実施した。
- 当日は、小学生の投票で決定する東京2020大会マスコットや大会運営に欠かせないボランティア、持続可能な資源を活用するメダルプロジェクトなど東京2020大会の取り組みを紹介した。
- また、オリンピック・パラリンピックに関するクイズを行い、例えば、バドミントンのシャトルの羽の種類といった出題を通じて、様々な競技の紹介を行った。

実施日程：2018年2月24日(土)

実施場所：丸ビル1F マルキューブ

参加委員：河合 純一 副委員長、穴井 隆将 委員
田口 亜希 委員



大会パートナー企業との取組み

WG 1 の取組状況 – 今後の取組に向けた意見交換等 –

パートナー企業との個別ミーティング

- WG1での意見交換を受け、アスリート委員会と日本電気株式会社(NEC)とで、具体的なアクションについて意見交換を行った。
- この結果、7月14日(金)のNECの創立記念日に開催されるNECの社員を対象とする社内ワークショップに、アスリート委員会から田口委員がパネリストとして出演することになった。
- ワークショップは、田口委員から、パラリンピックでの経験、アスリート委員会での活動や東京2020大会に向けた想いを講演する予定。

実施日程：2017年7月6日(木)

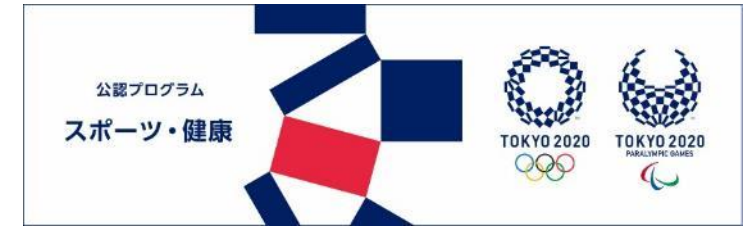
実施場所：NEC本社ビル内会議室

アスリート委員会：高橋 尚子 委員長
河合 純一 副委員長



WG 1 の取組状況 – 大会エンゲージメントの推進 –

「GOLD SPORT DAY 2017」 スポーツで、僕らはひとつになれる。



- 東京2020ゴールドパートナー11社は、組織委員会と協力して、自らがスポーツの価値を感じつつ、東京大会のムーブメントを推進することを目的とした、初の合同運動会「GOLD SPORT DAY 2017」を、開催した。
- 当日は、パートナー企業11社及び組織委員会から企業から、家族をあわせて総勢約2千人が集まり、アスリート委員のほか、各企業に所属しているアスリート達と一緒に、運動会でよく知られている「玉入れ」や「リレー」等を行った。

実施日程：2017年6月18日（日）

実施場所：幕張メッセ

共同主催(50音順)：

株式会社アシックス / JXTGエネルギー株式会社

東京海上日動火災保険株式会社 / 日本生命保険相互会社

日本電気株式会社 / 日本電信電話株式会社

野村ホールディングス株式会社 / 富士通株式会社

株式会社三井住友フィナンシャルグループ

三井不動産株式会社 / 株式会社明治

参加アスリート委員：高橋 尚子 委員長、

河合 純一 副委員長、

関根 明子 委員、田口 亜希 委員



「KWN Global Summit 2017 ボッチャプログラム」

- 組織委員会とアスリート委員会は、委員会とパナソニック社とでKWN Global Summit 2017一環として、海外より招待された学生達を対象にアスリート3人によるボッチャゲームとトークセッションを行った。
- 一般財団法人日本ボッチャ協会が協力の元、3名のアスリートと学生達が「スポーツ通じてチームワークを深め、自己ベストを目指し、チーム一丸となって枠を超えて挑戦する」目標共有した。

実施日程：2017年08月02日（水）

実施場所：パナソニック東京センター 1F

参加アスリート委員会：河合 純一 副委員長、関根 明子 委員

特別ゲスト:IPCデュアン理事



豊洲ユニバーサルフェスタ —みんなのチャレンジ！—



- 組織委員会と東京ガスは、1000日前イベントの一環としてアスリート委員会よるトークショーの他、子どもたちとパラリンピック競技やパートナー企業のユニバーサルな取組みを体験し、子どもたちがインタビューと新聞作成を行う「子ども記者体験」を東京ガスと協働で実施した。

実施日程：2017年10月28日（土）

実施場所：東京ガス豊洲がすてなーに 特設会場他

アスリート委員会：河合 純一 副委員長、不老 安正 委員、
池田 信太郎 委員、齋藤 理香 委員、関根 明子 委員



<UF&iEXPO2017>オリンピック・パラリンピック特設ブース 東京2020大会 1000Days to Go! 「さあ、集まろうぜ。」



- アスリート委員会と日本電気株式会社（NEC）は、1000日前イベントの一環として、NEC展示会にて河合副委員長の金メダルを持参したトークショーと上山委員のトランポリンデモやステージ上では東京2020参画プログラムなどの説明などを行った。

実施日程：2017年11月9～10日（木、金）

実施場所：東京国際フォーラム B1F 特設会場

アスリート委員会：河合 純一 副委員長、
上山 容弘 委員



1000日前だ。キャンペーン 「さあ、スポーツで集まろうぜ。11/24」

- アスリート委員会と日本電気株式会社（N E C）は、同社事業所内において、合同でランニングイベントを行った。
- 今後もN E C内では、継続的にランニングイベントが実施される予定であり、社員がよりスポーツに親しむ機会の創出が期待される（レガシー）。
- なお、本イベントは企画段階からアスリート委員が関わっており、委員のアイデアや委員会の目指すレガシーが反映されたものとなっている。

実施日程：2017年11月24日（金）

実施場所：N E C 玉川事業所

アスリート委員会：高橋尚子 委員長、田口 亜希 委員



日本生命 みんなの2020全国キャラバン



- 本企画は、大会パートナーである日本生命相互会社が東京2020オリンピック・パラリンピックを日本全国で盛りあげることを目指して、組織委員会と共催で行うプロジェクトであり、全国各地でイベントを開催している。
- 大阪府でのイベント「わが街アスリート」のトークショーでは、同府出身の上山容弘委員が参加し、東京2020に向けた抱負を語るとともにトランポリンの実演を行った。
- 本企画は、アスリート委員会のアイデア（移動スポーツ教室・わがまちアスリート）の要素を取り入れて下さったアクションであり、委員会のアイデアが具現化したものでもある。

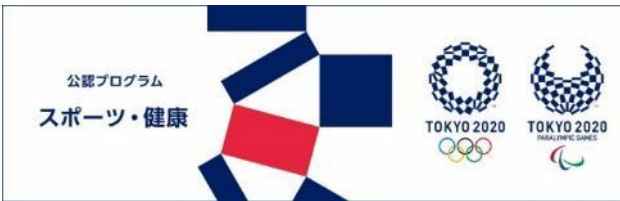
実施日程：2018年9月15日（木）、16日（金）

実施場所：大阪府万博記念公園

参加委員：上山 容弘 委員



〈UF & iEXPO2018〉ラグビーワールドカップ2019TM 東京2020オリンピック・パラリンピックに『集まろうぜ。』



- 日本電気株式会社（NEC）は、1年後のラグビーワールドカップ2019TM日本大会、2年後の東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会の会場を満員にし、みんなで盛り上げていこうという目的のもと、展示会にてイベントを実施した。
- 齋藤委員とパラパワーリフティング 山本選手による対談や競技の実演、パラパワーリフティングの体験会も行われた。

実施日程：2018年11月8～9日（木、金）

実施場所：東京国際フォーラム

地下1階ロビーギャラリー

参加委員：齋藤 里香 委員



2018年度はがきでコミュニケーション 全国発表大会



- 日本郵便株式会社が配布している「手紙の書き方体験授業用教材」を使用した授業において、実際にはがきを書いて、相手とやり取りを行った一連の具体的事例を、子どもたちが発表する場として実施。
- はがきのやり取りを通じて、子どもたちの伝える力やコミュニケーション力を育むことを目的としている。
- トークセッションに河合副委員長と関根委員が登壇し、それぞれの手紙にまつわる思い出を話した。



日時：2019年1月27日（日）
場所：JPタワー ホール&カンファレンス
委員：河合 純一 副委員長
関根 明子 委員

その他

WG 1 の取組状況 – 大会エンゲージメントの推進 –

「みやぎアスリート2020」指定書交付式

- 「TOKYO 2020公認プログラム（復興）」として認証された宮城県「東京オリンピック・パラリンピック強化支援対策事業」の指定書交付式が宮城県庁で開催された。
- 地元宮城県出身の菅原委員から村井宮城県知事へ、東京2020参画プログラムの公認マークを贈呈した。
- 菅原委員から、同事業により「みやぎアスリート2020」として指定された選手へ向けて、激励のメッセージを送った。

実施日時：2016年12月1日（木）

実施場所：宮城県庁

参加したアスリート委員：菅原 智恵子 委員



Photo by Tokyo 2020

WG 1 の取組状況 – 大会エンゲージメントの推進 –

平昌オリンピック聖火リレー

- 平昌2018大会から東京2020大会へ盛り上げをつなげるために、及川晋平委員が聖火ランナーとして参加しました。

平昌オリンピック聖火リレーの概要

移動距離	2018km
日数	101日 (2017.11.1～2018.2.9)
ランナー数	7,500人
コンセプト	Let Everyone Shine
ライブ中継	https://www.pyeongchang2018.com/en/torch-relay/torch-relay-live

実施日時：2018年2月8日（木）

実施場所：江陵

参加アスリート委員：及川 晋平 委員



Photo by Tokyo 2020

やまなし大運動会2018/2019



●萩原智子委員が企画した、地元山梨で開催するイベント。

●山梨にゆかりのあるトップアスリートが考案したオリジナル競技の大運動会。あわせて、アスリートが講師となり、ラグビー・陸上・サッカー・バレー・水泳の基本が分かるスポーツクリニックも開催する。

実施日程：2018年3月24日(土)

2019年3月16日(土)

主催：山梨トヨペット株式会社

協力：アシックスジャパン株式会社、株式会社明治

組織委員会

実施場所：緑が丘スポーツ公園(山梨県甲府市)

山梨市民総合体育館・山梨市屋内温水プール

参加アスリート委員：萩原 智子 委員

やまなし大運動会 2018

第1部 やまなし大運動会
山梨にゆかりのあるトップアスリート達が考案したオリジナル競技の大運動会！
チームに分かれてトップアスリート達と一緒に優勝目指してがんばろう！

第2部 スポーツクリニック
トップアスリート達が講師となり、ラグビー・陸上・サッカー・バレー・水泳の
基本が分かるスポーツクリニックも開催。楽しみながら体の使い方を学びましょう！

講師

ラグビー：ラウビー元日本代表 有賀 剛先生
陸上：シドニー・オリンピック・バレーボール 日本代表 須藤 大輔先生
バレーボール：シドニー・オリンピック・バレーボール 日本代表 萩原 智子先生
水泳：アサヒ・オリンピック・バレーボール 日本代表 辻 知恵先生

日時 2018年3月24日(土) 8:00~15:00
会場 緑が丘スポーツ公園(大体育館・小体育館・室内プール)
(山梨県甲府市緑が丘2-1)
対象 小学5年生~6年生 定員150名
持ち物 お弁当、飲み物、運動ができる格好、室内用運動靴(体育館履き)
水泳を希望される方は水着・ゴーグル・キャップ

参加無料

申込 ①FAX ②電話の「参加申込」に必要事項をご記入の上、FAXにてご応募ください。
(FAX: h.undokai@sannichi-ybs.co.jp)に必要事項をご記入の上、ご応募ください。
※お申し込みは、お申し込み締め切りまで有効です。

やまなし大運動会 2019

スポーツクリニック&運動会!!
みんなと一緒に楽しみながら、
トップアスリートに教えてもらおう!

講師

ラグビー：ラウビー元日本代表 有賀 剛先生
陸上：シドニー・オリンピック・バレーボール 日本代表 須藤 大輔先生
バレーボール：シドニー・オリンピック・バレーボール 日本代表 萩原 智子先生
水泳：アサヒ・オリンピック・バレーボール 日本代表 辻 知恵先生

日時 2019年3月16日(土) 8:30~15:00
会場 山梨市民総合体育館・山梨市屋内温水プール
(山梨県山梨市上石森701)
対象 小学4年生~6年生 定員100名
持ち物 お弁当、飲み物、運動ができる格好、室内用運動靴(体育館履き)
スポーツタオル、水泳を希望される方は水着、ゴーグル

参加無料

「TREAM」ホームページ <http://tream.club>
にアクセスし、必要事項をご記入の上ご応募ください。
オンラインチケットの申し込みは、申込期間中に必要事項をご記入の上、FAXにてお申し込みください。

申込はこちら

東京2020算数ドリルプロジェクト



- 算数教科書にリンクした副教材を作成し、東京都内全域の公立小学校へ配布
ドリル問題を解くことで、オリンピック・パラリンピアン、オリンピック・パラリンピック種目、東京大会への興味関心が高める。
- ドリル問題をオリンピック・パラリンピアンが実際に学校に出向いて証明する「実践学習（＝体育のような算数授業）」を併せて実施することで、ありふれた形ではないオリンピック・パラリンピアンの実用を実現。



28 おおその面積と体積

卓球の道具には、ボールの大きさは直径40mm、ネットの高さは1525mmのきまりがあります。しかし、ラケットの大きさには特別なきまりがありません。

小さいラケットでもOK! 普通のラケットでもOK! 大きいラケットでもOK!

卓球の試合が行われる会場は東京体育館です。東京体育館メインアリーナのゆかさのおよその面積と建物のおよその体積を求めましょう。

① およその面積
式 $32 \times 32 \times 3.14 = 3215.36$
答え [約3215m² (約3220m²)]

② およその体積
式 $3215 \times 27 = 86805$
($3220 \times 27 = 86940$)
答え [約86805m³ (約86940m³)]

東京体育館へ
ゆえんに来てね!

実践学習の様子 (渋谷区立代々木山谷小学校)



日時：2018年4月12日（木）

参加アスリート委員：

高橋 尚子 委員長



日時：2018年10月22日（月）

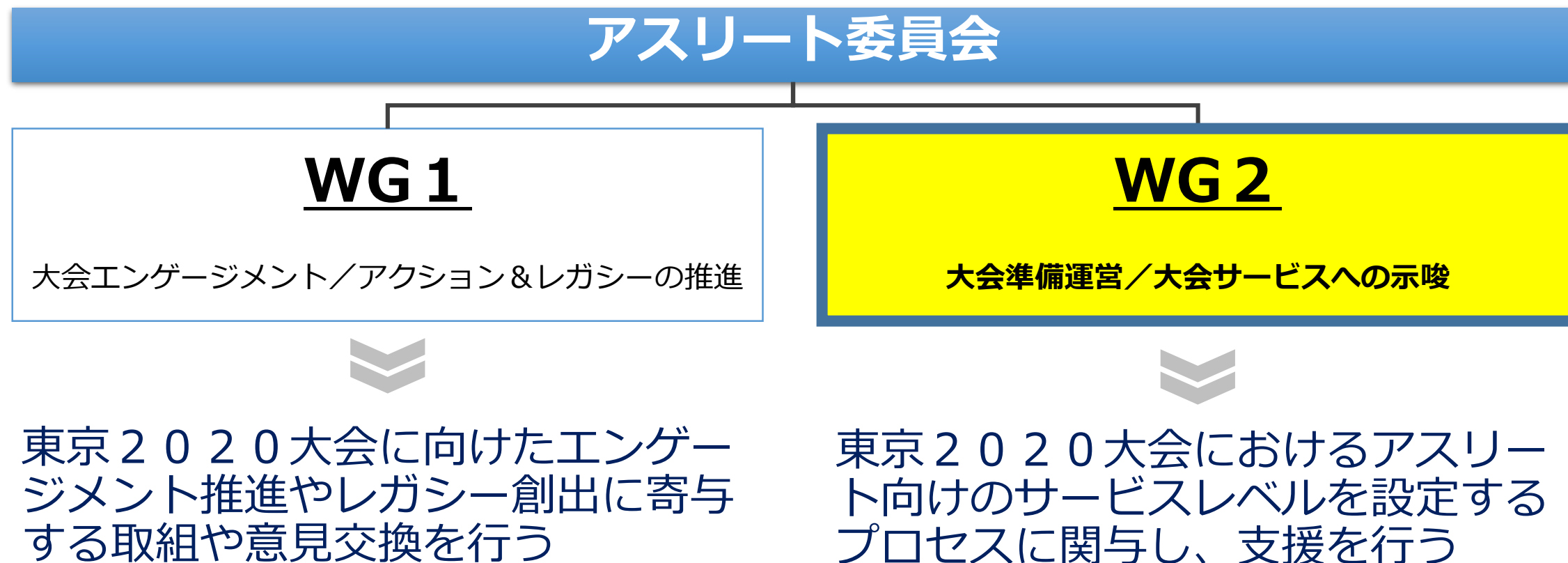
参加アスリート委員：

廣瀬 隆喜 委員

ワーキンググループ 2 (WG2)の振り返り

アスリート・ファーストの大会を実現するために

アスリート委員会が、これまで進めてきた、大会エンゲージメント、アクション&レガシー、アスリート・ファーストの大会実現に向けた様々な取組みが、より機能的に行えるように、委員会の下に2つのワーキンググループ（WG）を設置し、活動を開始（2016年7月～）



WG 2の活動について

<所管事項>

○アスリート視点での大会運営を実現

ミッション：アスリート向けの各種サービスについて、アスリートファーストの視点に基づいて、適正なサービスレベルが設定されるよう支援する。

<主な取組内容>

① リオデジャネイロ大会でのアンケート調査の実施

リオ2016大会におけるアスリート向けの各種サービスについて、同大会に出場した日本代表選手にアンケート調査を実施（詳細、次頁以下参照）

② 大会準備におけるアスリートの意見の反映

上記①のアンケート調査から得られた情報や、自身のアスリートの経験や知見を東京2020大会の運営計画を策定している組織委員会の実務担当者に対してフィードバックを実施



アスリート向けの各種サービスを提供する部門との連携を強化し、支援体制を構築

WG 2 の取組状況 – リオ大会でのアンケート調査の実施 –

調査内容



空港、輸送、選手村、食事、アクセシビリティ、スタッフ、などのアスリート向けの各種サービスについて調査

過去4年に渡るアスリート委員会WG2の振り返り

2016年度アスリート委員会WG2

リオ大会でのアンケート調査の結果を、各部門の運営計画を策定している実務担当者が集まる計画ワンチーム（通称：POT）会議でフィードバック。
各FAと情報共有を図り、アスリート向けのサービスレベルを設定するプロセスで、今後、どのように連携していくのかについて意見交換を行った。



【第1回写真】

【第1回】 実施日時：2016年11月10日（金）

出席者：池田 信太郎 委員（北京・ロンドン五輪代表：バドミントン）

谷本 歩実（アテネ・北京五輪代表：柔道）

参加人数：58名

また、食事や選手村などのサービスを担当する部門と個別に具体的な相談・連携を進めている。

アスリートがサービスレベルの設定プロセスに関与・協力

過去4年に渡るアスリート委員会WG2の振り返り

2016年度アスリート委員会WG2

リオ大会でのアンケート調査の結果を、各部門の運営計画を策定している実務担当者が集まる計画ワンチーム（通称：POT）会議でフィードバック。各FAと情報共有を図り、アスリート向けのサービスレベルを設定するプロセスで、今後、どのように連携していくのかについて意見交換を行った。



【第2回写真】

【第2回】 実施日時：2016年12月22日（金）

出席者：池田 信太郎 委員（北京・ロンドン五輪代表：バドミントン）

谷本 歩実（アテネ・北京五輪代表：柔道）

田口 亜希 委員（アテネ・北京・ロンドンパラ代表：射撃）

参加人数：57名

また、食事や選手村などのサービスを担当する部門と個別に具体的な相談・連携を進めている。

アスリートがサービスレベルの設定プロセスに関与・協力

過去4年に渡るアスリート委員会WG2の振り返り

2017年度アスリート委員会WG2【その1】

● 活動内容

- 4月 国立スポーツ科学センター視察
- 6月 IPCアスリートフォーラムでのアンケート調査実施
- 7.8.9月 POT (Plan One Team) 会議
- 8月 第1回 NPC Open Days 参加<参加NPCとの意見交換>
- 10月 NPC Experts Review会議

2017年度活動参加者

アスリート委員会：高橋委員長、河合副委員長、池田委員
高倉委員 関根委員、田口委員、上山委員

パラリンピアン：高砂 進（シッティングバレーボール：北京）
天摩由貴（ゴールボール：リオ）
初瀬勇輔（柔道：北京）

関係団体等：独立行政法人 日本スポーツ振興センター等



過去4年に渡るアスリート委員会WG2の振り返り

2017年度アスリート委員会WG2【その2】

● 活動内容

- 10月 選手輸送に関する打ち合わせ
- 10月 成田国際空港第1ターミナル検証
- 11月 選手村の計画に関するレビュー
- 2月 第4回 国立スポーツ科学センター視察 <対象：スポーツ>
- 3月 第3回 NOC Open Days 参加 <参加NOCとの意見交換>

2017年度活動参加者

アスリート委員会：高橋委員長、河合副委員長、池田委員、

高倉委員、関根委員、田口委員、上山委員

パラリンピアン：高砂 進（シッティングバレーボール：北京）

天摩由貴（ゴールボール：リオ）

初瀬勇輔（柔道：北京）

関係団体等：独立行政法人 日本スポーツ振興センター、株式会社成田空港等



過去4年に渡るアスリート委員会WG2の振り返り

2018年度アスリート委員会WG2【その1】

● 活動内容

- 4月 選手村でのロボット活用
- 4月 D&I（ダイバーシティ＆インクルージョン）会議
- 5月 選手村計画に関するレビュー
- 5、7月 ボランティアリテンションプラン
- 7月 国立スポーツ科学センター視察
- 8月 第2回 NPC Open Days 参加＜参加NPCとの意見交換＞

2018年度活動参加者

アスリート委員会：高橋委員長、河合副委員長、池田委員、関根委員、
田口委員、上山委員、萩原智子委員、萩原美樹子委員

関係団体等：トヨタ自動車、独立行政法人 日本スポーツ振興センター

【敬称略：50音順】



過去4年に渡るアスリート委員会WG2の振り返り

2018年度アスリート委員会WG2【その2】

● 活動内容

- 10月 アスリート委員会広報打ち合わせ
- 10月 NPC Experts Review会議
- 12月 選手村ベッドサンプルについて
- 2月 空港での長大手荷物の搬入路 現場検証
- 3月 第5回 NOC Open Days 参加 <参加NOCとの意見交換>
- 3月 選手村視察

2018年度活動参加者

アスリート委員会：高橋委員長、河合副委員長、池田委員、関根委員、田口委員、上山委員、萩原智子委員、萩原美樹子委員

関係団体等：トヨタ自動車、独立行政法人 日本スポーツ振興センター
【敬称略：50音順】



選手村計画に関するレビュー

2017年から2019年にかけて、選手村に関する計画等について、アスリート委員の方々と議論を実施した。

過去の活動

- ・ 2017年2月：選手村のマスタープランとコンセプト計画に関するレビューを実施
- ・ 2017年3月：選手村の現地視察を実施
- ・ 2017年11月：選手村マスタープラン進捗状況の説明会を実施
- ・ 2018年5月：選手村施設概要や動線の説明会を実施
- ・ 2019年3月：選手村の進捗と分村・選手用宿泊施設の説明会を実施

参加者

アスリート委員会：高橋委員長、河合副委員長、池田委員、
関根委員、田口委員、上山委員



選手村計画に関するレビュー

◎様々な面でアクセシブル対応ができる施設

例：車いすの方がすれ違いやすいような広い廊下幅

◎アスリートの方々が安心して滞在できる環境

例：セキュリティやプライバシーを守るためにバルコニーに間仕切りを設置

◎選手がリラックスできる空間

例：公園にベンチなどを設置



選手村完成イメージ図

※現時点での選手村完成イメージであり、今後変更となる可能性があります。

NOC Open Days /NPC Open Days

過去の活動

- ・大会準備のための直接的な経験や情報を得るため、選手村や競技会場の視察を行い、NOC/NPCと同じ目線で意見が言えるよう、NOC/NPC Open Daysに参加した。

参加者

アスリート委員会：河合 純一 副委員長、高倉 麻子 委員、田口 亜希委員



アスリート向けのサービスレベルを設定するプロセスに関与し、支援

過去4年に渡るアスリート委員会WG2の振り返り

NOC選手団団長セミナー

2019年8月19日（月）

選手団団長セミナーにおいて、アスリート委員の活動により、東京2020の計画がアスリートファーストを確実にしていることを紹介した。

<関連FA> NCS

<参加アスリート>

【オリンピック】

上山 容弘 委員（トランポリン：北京、ロンドン）

齊藤 里香 委員（ウェイトリフティング：北京）

菅原 智恵子 委員（フェンシング：アテネ：北京：ロンドン）

【パラリンピアン】

河合 純一 副委員長（水泳：バルセロナ～ロンドン）

田口 亜希 委員（射撃：アテネ、北京、ロンドン）

【TOKYO2020】

伊藤華英

【敬称略：50音順】



過去4年に渡るアスリート委員会WG2の振り返り

NPC選手団団長セミナー

2019年9月9日（月）

選手団団長セミナーにおいて、アスリート委員の活動により、東京2020の計画がアスリートファーストを確実にしていることを紹介した。

<関連FA>

NCS

<参加アスリート>

【オリンピック】

上山 容弘 委員（トランポリン：北京、ロンドン）

【パラリンピアン】

河合 純一 副委員長（水泳：バルセロナ～ロンドン）

田口 亜希 委員（射撃：アテネ、北京、ロンドン）【敬称略：50音順】



「活動報告書」の作成と構成について

本日のアスリート委員会でお伺いしたい内容

- 活動報告書作成に向けて、報告書の構成や記載内容に対する、各委員の皆様からのご指摘やご意見を頂戴したい。
- 今後は正副委員長と記載内容や視点、まとめ方、また、今後のスケジュール等についてお伺いしたい。



活動報告書

目的・基本方針

- ・大会終了後のレガシーの取りまとめを見据えて、アスリート委員会の活動の記録と成果を残すため、活動報告書を作成する
- ・単体のレポートとして作成するが、内容はアクション&レガシーレポートにも反映される
- ・レポートには、委員会やWG 1 (エンゲージメント活動)、WG 2 (大会準備活動) やその他委員が参加した会議体での成果等、幅広い活動を盛り込む
- ・今回のアスリート委員会では、報告書の概要(構成・掲載項目)のみの資料を使用し、活動報告書の完成は4月以降とする(アクション&レガシーレポートと同時並行)

全体構成

- ・委員のプロフィール、委員の変遷 ※改めて様式を作成、写真を頂きたい
- ・全10回にわたるアスリート委員会についてまとめる
- ・WG 1、WG 2の会議・活動内容
- ・正副委員長からのメッセージ
- ・その他

資料イメージ

目次

第一章 アスリート委員会開催実績（活動記録を含む）

第二章 アクション&レガシープラン

第三章 プランといただいた意見の実現状況

第四章 参画プログラムについて

第五章 WG 1 の活動・取組

- ・メダルデザイン/ボランティアとの取組
- ・東京2020みんなのスポーツフェスティバル取組
- ・パートナーとの取組
- ・自治体他との取組

第六章 WG 2 の活動・取組

- ・選手村計画に関するレビュー
- ・NPC Open Days との取組
- ・取組

結び 正副委員長からのメッセージ

プロフィールイメージ

河合 純一（かわい じゅんいち）様 プロフィール

1975年静岡県生まれ。
5歳より水泳を始める。
生まれつき左目の視力がなく、15歳で右目の視力も完全に失い、全盲となる。
幼いころからの二つの夢「教師になること」「水泳で世界一になること」を叶えるため、真剣に、かつ前向きに取り組み、
パラリンピックで3大会で金メダル、5大会合計21個のメダルを獲得。日本人初のパラリンピック殿堂入りを果たす。
また、早稲田大学卒業後、全盲では全国で初めて公立中学校社会科教師として、着任し、水泳部を指導。二つの夢を叶えた。

■主な活躍

- | | | |
|--------|------------------|----------------------|
| ・1992年 | バルセロナ1992パラリンピック | 銀メダル2個、銅メダル3個 |
| ・1996年 | アトランタ1996パラリンピック | 金メダル2個、銀メダル1個、銅メダル1個 |
| ・2000年 | シドニー2000パラリンピック | 金メダル2個、銀3個（日本選手団主将） |
| ・2004年 | アテネ2004パラリンピック | 金メダル1個、銀メダル2個、銅メダル2個 |
| ・2008年 | 北京2008パラリンピック | 銀メダル1個、銅メダル1個 |
| ・2012年 | ロンドン2012パラリンピック | 出場 |

■主な活動

- ・2003年 早稲田大学大学院に進学
- ・2003年 自伝映画「夢追いかけて」劇場公開
- ・2006年 JICA青年海外協力隊としてマレーシアの視覚障害者への水泳指導
- ・2009年 東京アジアユースパラゲームズ日本代表水泳チーム監督
- ・2020年 公益財団法人日本障がい者スポーツ協会日本パラリンピック委員会委員長就任

現在は、パラスポーツ推進活動だけでなく、夢や目標を持つこと大切さや、多様性、国際交流についての講演で活躍中。



レポートイメージ

全10回のアスリート委員会の振り返り

第2回アスリート委員会

- ▶前回委員会から約3か月後の2015年1月29日、第2回アスリート委員会を開催した。
- ▶単に2020年に東京で行われるスポーツの大会としてだけでなく、2020年以降も含め、日本・世界全体に対し、様々な分野でポジティブなレガシーを残す大会とするため「アクション&レガシープラン」を、リオ大会前に策定することとし、今後、アスリート委員会でも議論を行うこととした。
- ▶大会開催基本計画(GFP)について、オリンピック・パラリンピックに出場した経験やアスリートの視点からご意見をいただいた。その後組織委員会、同年2月27日に大会開催基本計画をIOC、IPCに提出した。

日 程：2015年1月19日（月）

場 所：ハイアットリージェンシー東京

主な議題：大会開催基本計画

アクション&レガシープラン



活動報告書作成に向けたスケジュール等について

- 過去の専門委員会でのご指摘やご意見、また、大会における活動実績を付加し、全体文案を作成する。
- 2020年10月を目途に各委員長、各委員にご連絡し、報告書内容をご確認いただく。
- 2020年11月～12月、アクション&レガシーレポート公表予定（日・英）に合わせる
＊具体的な、公表媒体、方法等については別途検討

なお、報告書の最終確認の進め方については、正副委員長と別途相談させていただきます。



「東京2020みんなのスポーツフェスティバル」 春の応募状況について

東京2020 みんなのスポーツフェスティバル



みんなのスポーツ
フェスティバル

© Tokyo 2020

1. 概要・目的

【概要】

- 全国の学校を対象に、**運動会等でのオリンピック・パラリンピックに関連した取組み**を公募し、審査のうえ、優れたものを表彰、公式サイト等で公表する企画

【目的】

- **スポーツへの関わり方（する・観る・支える）やオリンピック・パラリンピックの価値・意義**を学んでいただく
- 運動会等を通じ、**東京2020大会への参画意識**を高めていただく
- 東京2020大会以降も、**学校の運動会等においてオリンピック・パラリンピック精神や競技に触れる機会**を創出いただくこと（レガシーの創出）

2. 実施体制

【主催】

東京2020組織委員会 / 東京2020アスリート委員会

【後援】（順不同）

スポーツ庁、日本オリンピック委員会、日本スポーツ協会
日本障がい者スポーツ協会/日本パラリンピック委員会

3. スケジュール

【2019年度 春の運動会】

3月 募集案内
7月末 応募締切
10月 優秀賞の決定
10月18日 優秀賞等の公表
10月28日 表彰式

【2019年度 秋の運動会】

7月 募集案内
12月末 応募締切
2月 最終審査
優秀賞の決定
3月 優秀賞等の公表
表彰式等

4. 審査・表彰

【一次審査】

東京2020組織委員会による審査・・・20件程度を選出

【最終審査】

アスリート委員会及び後援団体による審査
・・・10件の優秀賞を選定

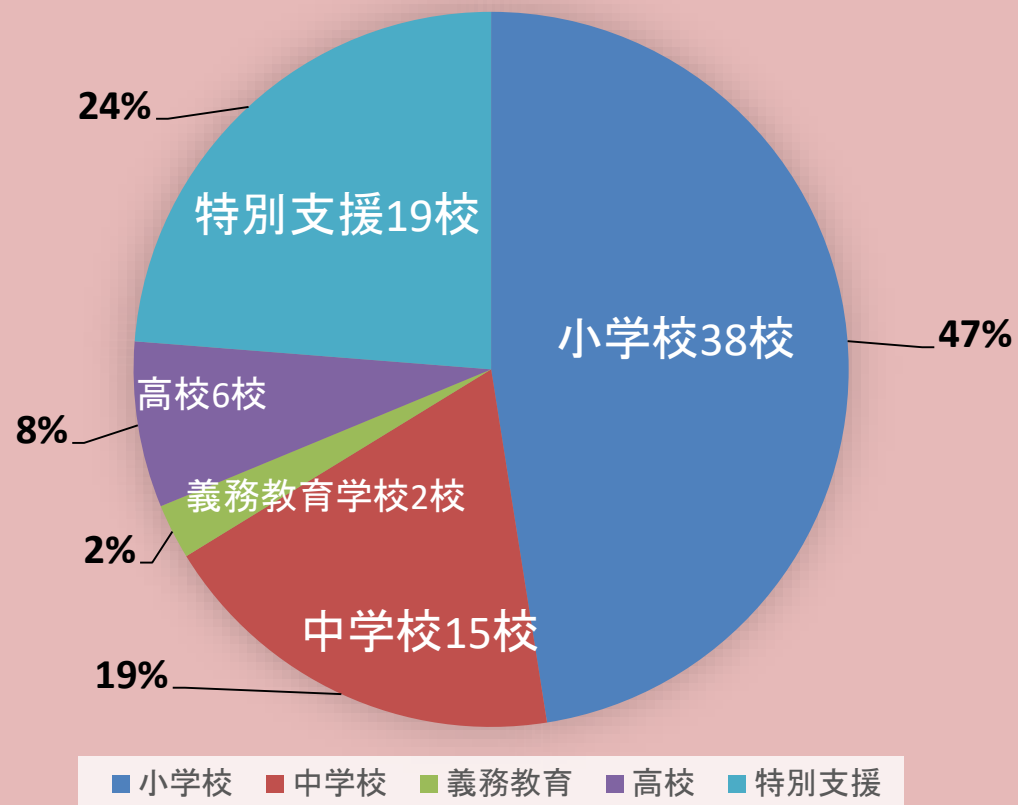
優秀賞受賞校には、表彰状と副賞（特製バトン等）を贈呈予定

1. みんなのスポーツフェスティバル(春) 応募結果について

【応募件数】 **80校**から**125プログラム**の応募 延べ**約22,000人**が参加

【募集期間】 2019年5月7日(火)から7月31日(水)まで

学校種別ごとの応募校数 合計80校



➤ **23都道府県**から応募が寄せられた（主に東日本）

➤ **最多は東京都**の25校であり全体の約30%

➤ **競技会場のある10都県**全てから応募

2. 優秀賞の審査結果について(春)

賞	受賞学校
東京2020アスリート委員会賞	山梨学院小学校（山梨県）
スポーツ庁賞	稲美町立母里小学校（兵庫県）
日本オリンピック委員会賞	寝屋川市立第三中学校（大阪府）
日本パラリンピック委員会/日本障がい者スポーツ協会賞	東京都立府中けやきの森学園（東京都）
日本スポーツ協会賞	福島市立吉井田小学校（福島県）
優秀賞	千葉県立東金特別支援学校（千葉県）
優秀賞	府中町立府中中学校（広島県）
優秀賞	静岡県立東部特別支援学校高等部（静岡県）
優秀賞	姫路市立飾磨小学校（兵庫県）
優秀賞	白老町立萩野小学校（北海道）

3. アスリート委員会賞 表彰式の実施について

受賞校の私立山梨学院小学校において表彰式を実施

(1) 表彰式の概要

日時：2019年10月28日(月) 13:00～

出演：アスリート委員会 田口 亜希 委員

内容：表彰状・リレーバトン授与、児童向け講演等

(2) 山梨学院小学校の取組み内容

運動会での開・閉会式や巨大壁画、ポスター、プログラム等で1964年からの近代日本の歩みを表現。

また、18の競技、表現運動について、模擬ハンマー投げやオリンピック創作ダンス等、その企画・立案・運営をすべて児童たちが仲間と創り上げた点が素晴らしかった。



運動会担当先生に田口委員から表彰状を授与



田口委員へ積極的に質問をする児童達

優秀賞

山梨県山梨学院小学校

「スポーツプロジェクト」

学校紹介

カレッジスポーツの振興・グローバル教育を特色とする山梨学院大学の系列小学校である。全国初の学校教育法第一条に規定されている幼小9年間の国際バカロレア（PYP）として認定を受けた。本校独自の《課題探究型プログラム》のひとつである「スポーツプロジェクト」はおよそ2週間、教科や学年を越えて1つのテーマ・課題を児童が協働で追究する。

取組概要等

【取組概要】

Sports Festival 2019「JAPAN 1964」と題し、東京2020大会につながる“近代日本のあゆみ”に注目。日本の歴史や文化が世界に誇る産業・スポーツパフォーマンスにおける技術革新など、広い視野で1964年の東京オリンピックをとらえ、競技に活かした。

【取組のねらい】

開・閉会式にかかわる演出・競技を含め、企画・立案・運営をすべて児童たち自らが仲間と協働して創り上げた。

【創意工夫した点】

当日着用するチームTシャツのデザインやプログラムのロゴマークは全校児童によるコンペティション制を導入、時代の成り立ちや高度経済成長期をモチーフとした巨大壁画やチーム旗を作成し、ナレーションや音楽・効果音も検討した。

また、全校児童が4チームに分かれ、現代オリンピックの競技や歴史的背景をヒントに、みんなが安全に楽しめるように、学年（発達段階）に応じたルールや場を工夫し、18の競技種目を考案した。

【取組結果や効果】

「する」「みる」「ささえる」視点でスポーツをとらえ、教科横断型の学びだけでなく、思考力やコミュニケーション力を高めることができた。

【来年度以降の展開予定など】

来年度は舞台を「東京」へ移して展開する予定。オリンピック・パラリンピックの価値を共有し、ともに創り上げる喜びを得られるよう、児童一人ひとりが自国開催を誇りに思えるようなスポーツプロジェクトを実施する。

プログラムの様子



全校児童による 表現運動

オリンピックのイメージから動きの素材を集めて、創作しました。エンディングでは「東京五輪音頭-2020-」も楽しみました。



オープニング・ エンディング

高学年児童が主体となり、開・閉会式を運営・演出しました。進行は日本語と英語を織り交ぜながら表現しました。



競技づくり

試技や話し合いを通して何度もフィードバックを重ね、ルールや用具も工夫しました。また掲示物を作成し、情報共有を図りました。



美術活動

ポスター・プログラム・Tシャツデザイン・壁画制作と、1964年までに至る時代背景やモダン建築物をヒントに、世界観を演出しました。

東京2020アスリート委員会からのコメント

全校児童が当事者となり、それぞれの得意な点を活かし、創意工夫して運動会を作り上げていったこと、そして何より、児童が様々な学習をしながらプログラムを実施している点が素晴らしかったです。来年も期待しています。

受賞のコメント

本来、スポーツは楽しいものでなければなりません。学習環境や手立てを整えることにより、運動が得意な子もそうでない子もバイタリティをもって取り組みます。そこには“児童と共に創り上げる”という教師の視点が必要だと考えています。

優秀賞

兵庫県加古郡稲美町立母里小学校 「2019年度 運動会」

学校紹介

本校は周りに田園風景が広がるのどかな地域である。保護者、地域の方々の多くが本校の卒業生であり、大変協力的である。毎年、春の運動会には、地域の方々の多くが参加してくださり、地域の運動会として大変盛り上がっている。

取組概要等

【取組概要】

パラリンピック競技であるシッティングバレーボールの要素を取り入れた、「シッティング玉入れ」を行った。

【取組のねらい】

毎年、地域の各地区の児童対抗リレーが伝統的に行われてきた。しかし、近年の児童減少のため、地区ごとのリレーチーム編成が不可能になってきた。そこで今後も持続可能な形の競技へ変更し、児童だけでなく保護者や地域の高齢者でも参加できる地区対抗の競技にし、地域全体で運動会を盛り上げる一体感の醸成をめざした。

【創意工夫した点】

地域の高齢者や小さな子どもでも参加できるように、座れる人はおしりをつけた状態で玉入れをし、座るのが困難な人は、半径3mの円を描き、その外から立って玉入れを行うようにした。

【取組結果や効果】

児童数が少ない地区でも低学年児童が参加でき、児童だけでなく保護者や地域の方々も含めて、まさに「地区対抗」で玉入れを楽しめた。なかなか難しかったが、かえてそれが好評で、ほのぼのとした雰囲気の中でみんなが笑顔になれる競技となった。

【来年度以降の展開予定など】

今後も同様に続けて実施していく予定である。よりたくさんの地域の方々に参加してもらえよう、検討を重ねていきたい。

プログラムの様子



各地区ごとに玉入れを行いました。座りながら入れるのは結構難しく、大変盛り上がりました。



地域の高齢者の方も参加。座るのが難しい方は3mの円の外から挑戦してもらいました。



低学年の児童も地区のために一生懸命がんばりました。立っている大人も必死でした。



さあ、いよいよ数を数えます。みんな真剣な表情でハラハラ、ドキドキ！結果はどうだったでしょうか。

スポーツ庁からのコメント

- ・児童に加え、保護者や地域住民などが参加できる形の競技を考案し、地域全体で盛り上がる一体感を醸成している点が素晴らしいかったです。
- ・小さな子どもや高齢者でも不自由なく参加できるようにパラリンピック競技の要素を加えている点にも工夫が見られました。

受賞のコメント

学校と地域の大切なつながりを認めていただき、大変嬉しく思います。今後、小規模校ならではの、地域が一体となってみんなが笑顔になれる取組をさらに続けていきたいです。ありがとうございました。

優秀賞

大阪府寝屋川市立第三中学校

「第59回 体育大会」

学校紹介

本校は学習にも部活動にも一生懸命取り組んでいる。特に運動部の部活動が盛んで、体カテストでも大阪府では毎年トップクラスの数値を記録している。また、ボランティア活動が盛んで、地域の清掃やお祭りだけでなく、「フラワープレゼンター」という、校区の一人暮らしのお年寄りの家に、お花を届けるという活動を行っている。

取組概要等

【取組概要】

本校では、来年の東京2020大会を盛り上げるために、今年度の体育大会のメイン・テーマを、「三中オリンピック」とした。

【取組のねらい】

みんなで5つのキーワードを決めて開会式で生徒会長が発表し、生徒たちのみならず、保護者や地域の方々にも意識を高めてもらうようにした。5つのキーワードとは、「品位」「情熱」「結束」「規律」「尊重」である。

【創意工夫した点】

今年度はいくつかの特別な取組を実施した。そのうちの一つとして、全学年、全クラスが制作する「学級旗」のテーマも「三中オリンピック」にし、美術の時間に全員の生徒にアイデアスケッチを描いてもらった。その結果、東京2020大会を意識した素晴らしい作品がたくさんできた。2つ目は、1年生の学年種目に二人三脚のペアを2組、縦に合体させ、4人で息を合わせて走る「4WD」という競技を行った。これは、「支援学級の生徒たちもみんなで一緒に協力してできる」ということを目的として取り入れた。練習の時から、4人がお互いを支え合い、声を掛け合い、本番では、本当に大変盛り上がった。

3つ目は、表彰式である。これまでは表彰状を渡していたが、今年度は技術科に表彰台を、家庭科部には月桂冠を、そして、美術部にメダル制作をお願いし、東京2020大会を意識した本格的な表彰式を実施することができた。メダルを噛むポーズをする生徒がいるなど、笑顔あふれる表彰式となった。他の生徒も、来年自分もこうなりたい、という生徒が多く、体育委員希望者が増えた。

【取組結果や効果】

今年度の体育大会は、学校・家庭・地域みなさんが、東京2020大会を強く意識してもらえ、「三中オリンピック」となった。

【来年度以降の展開予定など】

このかたちは、来年度以降も続けていくつもりである。

プログラムの様子



生徒達が美術の授業に、全員がオリンピックを意識したデザイン画を描き、特に良いものを学級旗としました。



本番のオリンピックさながら、笑顔あふれる豪華な表彰式となりました。



運動が得意な生徒も苦手な生徒も協力し、4人が足並みを揃えることで前に進む4WDという種目です。



生徒会よりテーマ発表があり、保護者や地域の方々にもオリンピックを意識してもらうことができました。

日本オリンピック委員会からのコメント

- ・5つのキーワードなどオリジナリティーのある運動会を作り上げている点を評価しました。
- ・特別支援学級の生徒も一緒に参加できるよう、創意工夫がなされている点がオリンピズムとして素晴らしいかと思います。

受賞のコメント

大変嬉しく光栄に思います。「みんなでオリンピックを盛り上げる」、という目標に向けて学校一丸となって取り組めたからこそ、当日も保護者や地域一体となった、素晴らしい体育大会となりました。

優秀賞

東京都立府中けやきの森学園

「けやきの森学園スポーツ フェスティバル2019」

学校紹介

本校は肢体不自由教育部門と知的障害教育部門の併置校で、それぞれ小・中・高等部までの児童・生徒が在籍している。ラグビーワールドカップ2019や東京2020大会会場の東京スタジアムや武蔵野の森総合スポーツプラザが近くにある、オリンピック・パラリンピック教育として様々な種目の選手と交流、学習する機会を設けている。

取組概要等

【取組概要】

パラスポーツである陸上競技(車いす走、ビーンバック投げ、徒競走)、ボッチャ、ボウリング、カローリング、卓球バレー、フライングディスク、ハンドサッカーの7競技にそれぞれの実態に応じて取り組んだ。児童・生徒が競技を通して交流できるよう、環境設定や時間配分を行った。

【取組のねらい】

様々な種目に親しむことで、パラリンピック競技を知り、体験することができたり、活動を通して障がい者スポーツや国際理解教育、日本の伝統・文化等に興味を示すことができるようにした。また、保護者や参観者も参加することで、共生社会についてやパラスポーツを知るきっかけになればと考えた。

【創意工夫した点】

開会式では、大会旗の掲揚を行い、全校児童・生徒が応援旗を作成し、フェスティバルを盛り上げた。

【取組結果や効果】

普段経験できない競技を知り、見学、体験することで、自分が競技者になれたり、順位を競ったり、評価されたりすることで、誰かとスポーツをする楽しさや難しさを知ることができた。

【来年度以降の展開予定など】

来年度以降も、「スポーツに親しむ」を目標とし、競技や児童・生徒の参加方法を検討する。

プログラムの様子



開会式は、生徒会が主体となり、進行を務めた。選手宣誓や大会旗掲揚などで、皆の期待感が一気に高まるのを感じた。



卓球バレーなどスポーツの体験コーナーでは、知的障害教育部門、肢体不自由教育部門、両部門の児童・生徒がチームを組み、交流を深めながら楽しむことができた。



ボッチャでは、簡易ルールを設けることで、本校の児童・生徒だけでなく、保護者や兄弟、卒業生や地域の方なども参加し、チームでの交流や競い合いを楽しめた。



全校児童・生徒の作成した大会旗は、フェスティバルのムードを盛り上げてくれた。

日本障がい者スポーツ協会 日本パラリンピック委員会からのコメント

パラリンピック競技の体験だけでなく、種目を通じて、障がい者スポーツや国際理解、文化学習を合わせて行うなど、創意工夫がなされている点が良かったと感じました。保護者、参加者の方々とも一体となった取組になっていると思います。

受賞のコメント

小さいころからスポーツに親しむことで、卒業後の余暇につながり、QOL*の向上が期待できると考えます。また、どんなに障がい重い子でも、スポーツを楽しめるよう、応援もプログラムに組み込み、全員が参加できるよう配慮しました。

* QOL : クオリティ・オブ・ライフ

優秀賞

福島県福島市立吉井田小学校 「2019年度 大運動会」

学校紹介

本校では、「オリンピック・パラリンピックで 吉井田っ子が 輪になる心」をキャッチフレーズに、オリンピック・パラリンピック教育推進校として様々な取組を行っている。オリンピックやパラリンピックの招聘といったイベント開催に留まらず、各学年で教科・領域における学習内容を、オリンピック・パラリンピック教育と関連させながら取り組んでいるのが特色である。

取組概要等

【取組概要】

毎年春に行っている運動会の内容を、オリンピック・パラリンピックの視点から見直し、昨年度に引き続き「吉井田オリンピック」を実施した。特に、開会式や競技種目の内容について創意工夫して実施した。

【取組のねらい】

全ての子どもたちが楽しんで参加するとともに、全力で取り組むことを通して、フェアプレー精神や最後まであきらめない気持ちを醸成することをねらいとした。さらに、東京2020大会への機運を高めるように工夫した。

【創意工夫した点】

入場行進前に本校マーチングバンド部員によるファンファーレの演奏を行った。開会式後に準備運動を兼ねて「東京五輪音頭-2020-」と＜NHK＞2020応援ソング「パブリカ」を使用したダンスを全校生徒と教師で行った。

各学年の種目に、オリンピック・パラリンピックを強く意識したものを取り入れて行った。東京2020スポーツピクトグラムを使用したり、競技内容を工夫するなどして実施した。子どもたちによる運動会スローガンを作成する中で、特に「模擬聖火リレー」を意識した文言がまとまった事を受け、模擬聖火をデザインしたカードに各学級のめあてを書き、校内に掲示した。また、会場内に手作りの模擬聖火台を配置した。

【取組結果や効果】

子どもたちのオリンピック・パラリンピックへの機運が盛り上がるとともに、特に、パラリンピック競技種目への興味・関心が高まった。また、保護者への啓発にもつながった。運動会当日だけでなく、当日までの練習の過程にこそ大きな効果が見られたのが収穫だった。

【来年度以降の展開予定など】

オリンピック・パラリンピックを意識した開会式等の内容や子どもたちの機運の盛り上げ方、競技種目等の工夫については、今後も継続して行い、全校一丸となって東京2020大会への機運を高めていきたい。

プログラムの様子



模擬聖火台や東京2020マスコット、東京2020エンブレムを会場に配置するなど、オリンピック・パラリンピック競技大会の雰囲気づくりをして運動会を進めた。



準備運動として、休み時間に練習した「東京五輪音頭-2020-」と＜NHK＞2020応援ソング「パプリカ」を全校生徒と教師で踊った。



各学年の種目に、オリンピック・パラリンピック競技を意識したものを取り入れた（写真はボッチャから考えた種目）



運動会のスローガンを作成するとともに、聖火をデザインしたカードに各学級のめあてを書いて掲示した。

日本スポーツ協会からのコメント

- ・フェアプレー精神や最後まであきらめない気持ちを醸成する事をねらいとしている点を評価しました。
- ・種目だけでなく、校内掲示など内容が多岐にわたっている点、全体において東京2020大会の機運を高めるよう、創意工夫がなされていた点が素晴らしかったです。

受賞のコメント

児童会の子どもたちが中心となり、運動会を盛り上げるため模擬聖火台や聖火のめあてカードを考案しました。全校でダンスを踊り、地域にオリンピック・パラリンピックをアピールすることができました。

優秀賞

千葉県立東金特別支援学校

「第47回 運動会」

学校紹介

本校は、小・中・高等部の3学部ある知的障がいの特別支援学校である。2016年より、オリンピック・パラリンピック教育に取り組み、2018年から県教育委員会より推進指定校を受けて取り組んでいる。2020年に向け、オリンピック・パラリンピックや障がい者スポーツを校内はもとより、地域にも広める事を目的とした児童生徒主体の推進隊を結成し活動している。

取組概要等

【取組概要】

本校は各学部で個人、団体種目が設定され、オリンピック・パラリンピックの要素を取り入れた運動会は4年目となる。
また、全校児童・生徒による模擬聖火リレーを実施した。

【取組のねらい】

これまで体育等で取り組んできた学習にオリンピック・パラリンピックの要素を柔軟に取り入れて運動会種目にする事をねらい取り組んだ。

【創意工夫した点】

小学部は、学習で両手でロープをたぐり寄せる動作をおこなっており、その動作を応用して東京2020マスコット「ミライトワ」と「ソメイティ」が乗ったサーフボードをロープでたぐり寄せる競技をした。中学部は、千葉県開催競技の8競技から、生徒がサーフィン、レスリング、車いすフェンシングを選択し障がい物競争に活用した。高等部では、リレーのバトンのかわりにオリンピックのシンボルの輪に変えて2人1組で行った。模擬聖火リレーは採火式を運動会集会で行い、その日から3週間かけて全校で実施した。オリジナルのトーチはデザイン募集をして制作した。当日は、80m離れた場所からペットボトルロケットに点火し、校舎屋上の模擬聖火台に点火した。これは、1992年のバルセロナオリンピックの点火シーンを参考にしたものである。

【取組結果や効果】

体験を通して学習することで、競技の理解、ルールの特性を学ぶことができた。東京2020大会に向け機運醸成はもとより、地域にオリンピック・パラリンピックや障がい者スポーツを啓発する良い機会となった。

【来年度以降の展開予定など】

次年度以降も、従来の活動にオリンピック・パラリンピックの要素を柔軟に取り入れ継続して取り組む予定である。

プログラムの様子



・模擬採火式
オリンピックの聖火
の学習として、凹
面鏡等を用意し、
採火から忠実に
再現した。



・模擬聖火リレー
毎日、運動会練
習前に模擬聖火
リレーを実施。全
校144名で運動
会までつないだ。



・小学部種目
体育で取り組んで
いる要素と千葉県
開催競技サーフィン
を合わせた種目。



・中学部種目
千葉県開催競技
を障がい物競争
で実施。写真は
車いすフェンシング
の様子。

東京2020アスリート委員会からのコメント

小・中・高等部の競技が工夫されていると感じました。現在、行っているオリンピック・パラリンピック教育や千葉県で開催予定の競技など、多岐に渡って種目を取り入れ、模擬聖火リレーをリアルに表現したと思います。

受賞のコメント

運動会にオリンピック・パラリンピックの要素を柔軟に活用し取り組むことで、体験的な学習となり理解につながります。運動会のねらいは、これらの要素と合致する部分が多いので取り入れやすいです。

優秀賞

広島県府中町立府中中学校 「第73回 大運動会」

学校紹介

本学校教育目標は、「人間(じんかん)に学び合い、『志』をもって生きる生徒の育成」。「絆 つながる」をテーマに、「自分の夢や目標をもち、社会や人のために貢献できる自分の役割を考える『志』」を高めていくことを目指している。

取組概要等

【取組概要】

本校では、東京2020大会への参加意識を高め、その精神に触れる機会を創出することを目的とした運動会を行った。1つ目は、体育委員会で、オリンピック・パラリンピックに関連した競技を話し合って検討した。その結果、ハンマー投げ・サッカー・パシュートの競技をイメージした「つながりオリンピック3種競技」という団体競技を考え実施した。また「フラッグ騎馬戦」として誰もが安全に参加できるようなルール工夫を考え競技を行った。2つ目は、運動会に向けて、スローガン（一心同体）を「運動会にかける思い」を書いた全校生徒のカードでつなぎ合わせ、完成させた。オリンピックの模擬聖火が人々の思いをつないでリレーされるように、運動会のスローガンも思いをつないで開会式で披露した。

【取組のねらい】

オリンピック・パラリンピックが、参加する人はもちろん、見ている人も支える人も感動がつながり、ひとつとなるよう、運動会に向けて、全校生徒が目標に向けて一心同体となって取り組むことをねらいとした。

【創意工夫した点】

団長と体育委員で応援団を結成して、学年を超えたつながりや、応援合戦を通して互いに認め合うこと、またフェアプレーの精神を理解させることができた。

【取組結果や効果】

競技やルールを自分たちで考えることにより、スポーツを全員が楽しむことも考えられるようになった。また従来のスローガンに比べ、クラス・学年・チーム府中という連帯感が全校生徒に芽生え、大好評であった。

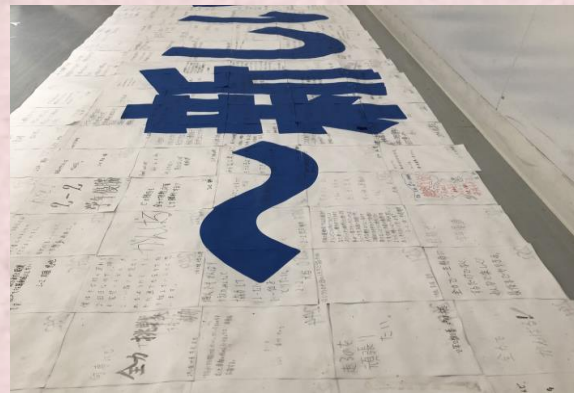
【来年度以降の展開予定など】

今回の結果を踏まえ、来年度は東京2020大会開催の年であることもあり、オリンピック・パラリンピックの精神を踏まえて、生徒に考えさせながら運動会を実施していく予定である。

プログラムの様子



大運動会に集う人が1つになる感動をめざし、生徒一人ひとりの思いをつないだスローガンを開会式で披露しました。



オリンピックの聖火が人々の思いをつなぐように生徒一人ひとりが大運動会にかける思いをカードに書き、つなげ合わせました。



自分たちでオリンピックの競技の中から選択し、ルールを工夫して考え出した全員参加型種目でした。



参加する人も見る人も支える人も思いを言葉にすることで「一心同体」の風がふきました。

東京2020アスリート委員会からのコメント

「つながりオリンピック3種競技」のアイデアが大変良かったと思います。全校生徒の運動会にかける思いを描いたカードをつなぎ合わせて横断幕にしたことが、学年を超えて一体感を醸成したことに寄与したと感じました。

受賞のコメント

国際的なスポーツ大会であるオリンピックの価値の1つである「友情」をテーマに、スローガンを決めた。全員が一心同体となり全員参加で楽しむスポーツへの関わり方を体感できた大運動会となりました。

優秀賞

静岡県立東部特別支援学校 「令和元年度高等部・ 高等部 訪問教育 高等部体育祭」

学校紹介

本校は、肢体不自由障がいのある児童・生徒の教育をする特別支援学校である。小学部、中学部、高等部の3学部に分かれており、各学部では、個々の実態に応じたコースに分かれ、一人ひとりの力を発揮する指導、支援をしている。今年で創立53年になり、昨年9月に新校舎が完成し、今年度は新しい体育館で初めて各学部の体育祭を実施した。

取組概要等

【取組概要】

本校の高等部では、来年に控えた東京2020大会への参画意識や、スポーツへの興味・関心を高める目的で計画した。

【取組のねらい】

体育でオリンピック・パラリンピックの精神を学び、「私たちだからできるチャレンジ～東京2020へ届け～」としてスローガンに掲げた。準備段階から生活単元学習や総合的な学習の時間等でも様々なチャレンジをしてきた。集団表現「ダンス☆マス」では、少人数でも見応えのあるパフォーマンスになるよう、巨大な手具作りから始めた。

【創意工夫した点】

生徒が、和紙を藍色に染めた巨大な帯を縦横交互に通し、東京2020エンブレムにも使われた組市松紋を織り上げるパフォーマンスやオリンピックのシンボルやパラリンピックのスリーアギトスを表現した帯を制作し、車いすで移動しながら2020を形作るパフォーマンスを実施した。

【取組結果や効果】

体育祭テーマを「東京2020大会を盛り上げよう」に設定することで、準備から本番まで生徒の自信に満ちた表情や一人ひとりのチャレンジする姿が見られ、学部全体が一致団結することができた。

【来年度以降の展開予定など】

来年度においても本テーマに即したプログラムの計画をすることで、生徒の主体的活動を引き出し、生涯にわたってスポーツに親しむ態度の育成につなげていきたいと考えている。

プログラムの様子



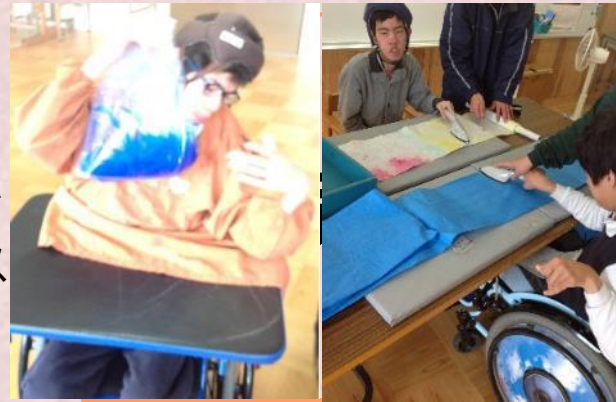
縦帯担当の生徒がリズムに合わせ、帯のついた棒を上下に動かす。車いすを自操する生徒が正面左側から右へ進み組市松紋を編む様子。



リボンを運ぶ生徒が、車いすで移動しながら各ポイントで待つ生徒にリボンを届け、2020を形作る様子。



リボンで形作った2020・織り上げた組市松紋、最後に訪問教育の生徒が京紙で飾り付けたスローガンが掲げられた。



組市松紋に使う和紙は、自立コースの生徒が藍色に染め、生活コースの生徒がアイロンをかけて織りやすい帯に仕上げた。

東京2020アスリート委員会からのコメント

事前学習の時間を活用して、ツールの作成を始めとしたさまざまなチャレンジを行ったこと、特に巨大な和紙を使い組市松紋を織り上げるパフォーマンスは、さすが高等部の生徒さんと言えるプログラムだと思いました。

受賞のコメント

生徒達は、今回の受賞で、一層の自信と誇りを持ち、今後様々な活動において、益々意欲的に取り組むと思います。教師のチームワークも高まり、東京2020大会に向けて、充実した活動ができたことに感謝致します。

優秀賞

兵庫県姫路市立飾磨小学校

「2019年度 運動会」

学校紹介

飾磨小学校は、姫路市の南部に位置し、商業地、住宅地が広がる昔からの市街地である。また、図書館の分館、市役所の支所、保健所、市立体育館等の公共施設があり、姫路市の副都心としても発展している。秋には、校区の三つの神社で祭りが行われ、子どもを始め老若男女を問わず多くの地域住民が積極的に参加しているため、町ごとに団結する意識が高い。

取組概要等

【取組概要】

学習課題を「2016年のリオデジャネイロオリンピックの閉会式の続きを作ろう」と設定し、6年生一人ひとり全員が学習課題に対して、ストーリーを考え、集団演技を児童と共に創作することとした。児童の意見を集約した結果、「Cool Japan2020～セレモニーof聖火～」を表現することになった。

【取組のねらい】

運動会の集団演技に対して主体的に取り組みながら、表現運動への学びを深めるとともに、オリンピック・パラリンピックへの参画を目指した。

【創意工夫した点】

2016年のリオデジャネイロオリンピックの閉会式の動画を見せ、オリンピックの雰囲気をつかませた。また、オリンピックの歴史と東京2020大会に向けた全体コンセプトを紹介した。音楽に合わせて入場の仕方や演技の内容・隊形を児童に自由に考えさせて、スポーツの楽しさ・日本の美しさを表現した。特別な支援を要する児童も、自分たちが考えた動きであったため、すべての活動に参加することができた。

【取組結果や効果】

演技を通して、児童はオリンピックの模擬セレモニーを作ろうと力を合わせ、活動することができた。運動会後も、スポーツを楽しむ姿やイラストにオリンピックのシンボルを書いたり、「2020」と表記したりする児童が多数みられた。また、夏休みの宿題にオリンピックの絵を描いたり、オリンピックの見所について調べたり、工作で東京2020マスコット「ミライトワ」と「ソメイティ」のイラストを描いたりするなど、運動やオリンピック・パラリンピックへの意欲が高くなった。

【来年度以降の展開予定など】

2020年度運動会においては、全学年においてオリンピック・パラリンピックや世界をテーマとした集団演技を実施したいと考えている。

プログラムの様子



ファンファーレ「スポーツの祭典」では、スポーツの楽しさを表現するために、児童が使用したい表現方法を取り入れて演技内容・隊形をグループごとに自由に考えさせた。最後は、土管から模擬聖火をもった4人が登場して全員でポーズをとった。



【児童の意見】
組体操 一輪車
ジャベリックボール
フラッグ
フラフープ
バトントワリング
模擬聖火ランナー
なわとび
棒体操



「聖火物語」では、リオデジャネイロから日本の飾磨港へと聖火を運ぶ物語。その途中に嵐に巻き込まれる。嵐が過ぎさり、何とか日本にたどり着いた。そこで見た日本はなんと美しく、かっこよい国なのだろうと改めて感じた。飾磨小へと聖火を運び、巨大な聖火台に火を灯す様子はまさに神秘である。※聖火点灯の様子



フィナーレ「創作組体操」では、1年生から5年生がバックダンスとして＜NHK＞2020応援ソング「パプリカ」を踊る前で、5人組→クラス→学年の順に創作組体操を行った。児童自身で考えた技を披露した。クラス演技には、平和をテーマとした演技を行った。

東京2020アスリート委員会からのコメント

2016年のリオデジャネイロオリンピックの閉会式の続きを作るというテーマ設定により、6年生全員で意見集約してできあがった「聖火物語」というプログラムは素晴らしいと感じました。事前準備としてオリンピックの歴史などの学習を行ったこと、特別支援学級の児童さんとの連携も評価しました。

受賞のコメント

普段の教育活動にオリンピック・パラリンピックを関連付けることで、東京2020大会が子どもたちにとって、身近で特別な存在になります。今回は学習課題の与え方を工夫すること、児童が創り上げていくこと、演技（運動）を全力で楽しむことによって、主体的に運動会の演技に取り組む姿が見られ、生涯にわたって運動を楽しむ子の育成につながったと感じています。

北海道白老町立萩野小学校 「令和元年度 大運動会」

学校紹介

本校の児童数は、現在、全盛期の7分の1に減少している。地域自治は、一様に高齢化率が高い中、伝統を重んじながら若い世代のニーズに応じた取組を積極的に小学校と共に行っている。その中、子どもたちは、萩小スタンダードで、気持ちの良い挨拶などを地域の方を含めて交わしている。

取組概要等

【取組概要】

多様性と調和をコンセプトにし、低学年は＜NHK＞2020応援ソング「パプリカ」に合わせたダンス。中学年はハードル走等を取り入れた運命走と「東京五輪音頭-2020-」に合わせたダンス。高学年は東京2020エンブレムを用いた応援旗を作成。支援学級は模擬聖火リレーの児童が考案したオリジナルのトーチを作成。

【取組のねらい】

オリンピック・パラリンピックへの関心を高めること。今まで以上にスポーツを「する、みる、ささえる」きっかけにすることの2点を狙いとした。

【創意工夫した点】

当日はトランペットのファンファーレで幕開けし、オリンピックのマーチに合わせて入場行進するなど随所にオリンピックの雰囲気を出した。開会式では、作成した応援旗とオリジナルのトーチを使い、通常学級と支援学級の児童が一つになって模擬聖火リレーを行い、最終走者が力強く選手宣誓をした。

【取組結果や効果】

本取組により、選抜リレーの選手になれなかった子が、旗手や模擬聖火ランナーを務めるなど、スポーツが苦手な子の活躍の場になり、スポーツへの関心が高まったと感じる。

【来年度以降の展開予定など】

来年度も全校児童でオリンピック・パラリンピックの機運を高められるような運動会にしたいと考えている。

プログラムの様子



1・2年生による表現運動です。発表の最後にはオリンピックのシンボルを作りました。



高学年が作成した東京2020エンブレムを用いた旗を掲げて入場行進をしました。



開会式に、模擬聖火リレーを行いました。通常学級と特別支援学級の代表が模擬聖火をつなぎました。



中学年による表現運動です。「東京五輪音頭-2020-」に合わせて元気よく踊りました。

東京2020アスリート委員会からのコメント

通常学級と特別支援学級の児童が一緒になって、プログラムに参加できるように工夫している点が素晴らしかったと感じました。また運動が苦手な児童も活躍できる場が作られている点が良かったと思いました。

受賞のコメント

インクルーシブ教育を運動会の中にどのように組み込むか、また全校的な取組として各学年がどのような形で関われるか、の2つの視点をもってプログラムを構成しました。



資料 4

アクション&レガシーレポートについて（概要資料）

本日の専門委員会でお伺いしたい内容

- アクション&レガシーレポート策定に向けて、各章の構成や記載内容を具体化した概要資料に対する、各委員の皆様からのご指摘やご意見を幅広い観点から頂戴したい。
- 例えば、
記載内容や視点、まとめ方、また、今後の公表の方法等についてお伺いしたい。

アクション&レガシーレポート(暫定版)

全体構成

挨拶等

第一章 はじめに

第二章 スポーツ・健康

第三章 街づくり・持続可能性

第四章 文化・教育

第五章 経済・テクノロジー

第六章 復興・オールジャパン・世界への発信

第七章 東京2020参画プログラム

第八章 東京2020 NIPPONフェスティバル

※参画プログラム一覧は、ホームページへの掲載をもってかえる。

第一章 はじめに

目次と主な内容

1 アクション&レガシーレポートについて

- ・東京2020大会をきっかけとして生まれた取組（アクション）やその成果を、未来につなげる（レガシー）ため、2016年にアクション&レガシープランを策定
- ・アクションの成果やレガシーについて、アクション&レガシーレポートとしてとりまとめる

2 オールジャパンでの取組

- ・東京2020大会に一人でも多くの方が参加し、オールジャパンで盛り上げる体制を構築
- ・組織委員会のみならず、関係団体と連携しながら取組を推進

3 各柱を横断する視点

- ・「参画」と「レガシー」は5本の柱の共通理念
- ・東京2020大会は同一都市で2回目のオリンピック・パラリンピックを開催する初の大会であり、パラリンピックの成功を通じた共生社会の実現を目指してきた

4 今後の取組

- ・東京2020大会後も、東京都、政府、JOC、JPCをはじめとする様々なレガシーの担い手により取組が実施されることで、レガシーとして未来につながっていくことを期待
- 東京都**：大会開催の影響等を、レガシー・レポーティング・フレームワークを活用し発信
- 政府**：平成27年11月に閣議決定した「オリパラ基本方針」にレガシーの創出と発信を掲げており、ロンドン大会の取組を参考に検討を進めている

5 本レポートの構成

第二章

スポーツ・健康

基本的な考え方

スポーツの力でみんなが輝く社会の実現に向けて

「スポーツには、世界と未来を変える力がある」の大会ビジョンのもと、「スポーツの力」を活かし、誰もが自分の持つ力を発揮して、みんなが「輝く」（活躍することのできる）社会を目指す

レガシーコンセプト	アクション	実績・成果	レガシー
誰もがスポーツを「する・観る・支える」社会の実現	- アスリートとの触れ合いを通じて、大会や競技に関する知識・関心が向上する取組を実施（「東京2020オリンピック・パラリンピックフラッグツアー小中学校訪問イベント」等） - 大会やスポーツ参加へのエンゲージメントの強化（「東京2020みんなのスポーツフェスティバル」、「東京2020Let's 55」等）	- スポーツ実施率向上 「健康経営」認知度向上 - スポーツに関するボランティア活動の参加率向上	- スポーツ参画人口の拡大 「Sport in Life」の実現 - スポーツ（運動）の力による健康寿命の延伸
アスリートが活躍する社会の実現	- アスリートとの交流促進（「若手アスリート参画プロジェクト」「アスリート・スペシャル・トークセッション」等） - アスリートのキャリア形成・活用のしくみを産学官・地域の連携により構築（「アスナビ」） - アンチ・ドーピングの推進などスポーツ・インテグリティ確保の分野で、世界に範を示す	- JOCによるアスナビ企業説明会の開催回数・参加アスリート数の増加 - アンチ・ドーピング教育の啓発	- アスリートの育成と活躍の推進 - スポーツ・インテグリティの確保
パラリンピックを契機とした共生社会の実現	- プロモーションの強化や実際にスポーツを体感できる機会の創出 - 障がいのある人もない人もスポーツを通じて交流する機会の創出や障がい者への理解促進につながる取組を推進（「スポーツ共生まつり」等）	- 障がい者スポーツ実施率の向上 - 障がい者スポーツ観戦者の増加	- 障がい者スポーツのファン拡大 - 障がい者スポーツの環境整備 - 共生社会に向けたアプローチ

アクション&レガシーレポート策定に向けたスケジュール等について

- 本日の専門委員会でのご指摘やご意見、また、大会における実績や評価等を付加し、全体文案を作成する。
- 2020年10月を目途に各委員長、各委員に持ち回りで文案をご確認いただく。
- 2020年11月～12月、アクション&レガシーレポート公表予定（日・英）
＊ 具体的な、公表媒体、方法等については別途検討

なお、アクション&レガシーレポートの最終確認の進め方については、各委員長と別途相談させていただく。